

2016年度 自己点検・評価結果

基準1 理念・目的

文学部・文学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
 文学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	1-2U	【学部】 学部・学科ごとの「教育研究上の目的」が学則に 定められていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学学則	なし	年度初め
	1-2G	【研究科】 研究科・専攻ごとの「教育研究上の目的」が学則 に定められていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則	なし	年度初め
(2)	1-4U	【学部】 「教育研究上の目的」は、公的な刊行物、ホーム ページ等によって周知・公表されていますか。	2016	○	【学部】 学部パンフレット (2016 年度) 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/5/5) 大学ホームページ「教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html 確認日:(2016/5/5) 学部ホームページ	なし	年度初め
	1-4G	【研究科】 「教育研究上の目的」は、公的な刊行物、ホーム ページ等によって周知・公表されていますか。	2016	○	【研究科】 研究科パンフレット (2016年度) 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016.5.19) 大学ホームページ「教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html 確認日:(2016.5.19) 研究科ホームページ	なし	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
 文学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	1-5U	<p>【学部】 学部の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第83条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・学部の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【学部】 大学学則第13条第4項第11号 検証会議体:教授会</p>	<p>【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()</p>	年度初め
	1-5G	<p>【研究科】 研究科の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第7号 検証会議体:研究科教授会</p>	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()</p>	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
 文学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	1-6U	<p>【学部】 学部の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第83条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・学部の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	×	<p>【学部】 第●回教授会議題・議事録等 検証会議体: 教授会</p>	<p>検証会議体: フランス文学科分科会議事録 検証会議体: 日本文学科分科会議事録第7回、9回、10回 検証会議体: 史学科分科会議事録第5回、6回、11回など。</p>	年度末
	1-6G	<p>【研究科】 研究科の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	×	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第●回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体: 研究科教授会</p>	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等</p>	年度末

教育人間科学部・教育人間科学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務部
 評価基準： 1（理念・目的）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(1)	1-2U	【学部】 学部・学科ごとの「教育研究上の目的」が学 則に定められていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学学則	なし	年度初め
	1-2G	【研究科】 研究科・専攻ごとの「教育研究上の目的」が 学則に定められていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則	なし	年度初め
(2)	1-4U	【学部】 「教育研究上の目的」は、公的な刊行物、 ホームページ等によって周知・公表されてい ますか。	2016	○	【学部】 学部パンフレット (2015年度) 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日：(2016/05/05) 大学ホームページ「教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html 確認日：(2016/05/05) 学部ホームページ	なし	年度初め
	1-4G	【研究科】 「教育研究上の目的」は、公的な刊行物、 ホームページ等によって周知・公表されてい ますか。	2016	○	【研究科】 研究科パンフレット (2016年度) 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日：(2016.05.07) 大学ホームページ「教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html 確認日：(2016.05.07) 研究科ホームページ	なし	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務部
 評価基準： 1（理念・目的）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(3)	1-5U	<p>【学部】 学部の理念・目的（「教育研究上の目的」）の適切性（※）を検証するにあたり、会議体（委員会等）・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第83条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・学部の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【学部】 大学学則第13条第4項第11号 検証会議体:教授会</p>		年度初め
	1-5G	<p>【研究科】 研究科の理念・目的（「教育研究上の目的」）の適切性（※）を検証するにあたり、会議体（委員会等）・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第7号 検証会議体:研究科教授会</p>		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務部
 評価基準： 1（理念・目的）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(4)	1-6U	<p>【学部】 学部の理念・目的（「教育研究上の目的」）の適切性（※）は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第83条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・学部の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【学部】 第●回教授会議題・議事録等 検証会議体:教授会</p>	<p>【学部】 第19回教育人間科学部教授会(2017.3.10)資料)</p>	年度末
	1-6G	<p>【研究科】 研究科の理念・目的（「教育研究上の目的」）の適切性（※）は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第●回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会</p>	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第19回教育人間科学部教授会(2017.3.10)資料)</p>	年度末

経済学部・経済学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	1-2U	【学部】 学部・学科ごとの「教育研究上の目的」が学則に 定められていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学学則2016/6/4確認	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	1-2G	【研究科】 研究科・専攻ごとの「教育研究上の目的」が学則 に定められていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則2016/6/4確認	6/8学部自己点検委員会	年度初め
(2)	1-4U	【学部】 「教育研究上の目的」は、公的な刊行物、ホーム ページ等によって周知・公表されていますか。	2016	○	【学部】 学部パンフレット (16 年度) 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (16年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/ 6/4) 大学ホームページ「教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html 確認日:(2016/ 6/4) 学部ホームページ	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	1-4G	【研究科】 「教育研究上の目的」は、公的な刊行物、ホーム ページ等によって周知・公表されていますか。	2016	○	【研究科】 研究科パンフレット (16 年度) 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (16 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016/ 6/4) 大学ホームページ「教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html 確認日:(2016/6/4) 研究科ホームページ	6/8学部自己点検委員会	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	1-5U	<p>【学部】 学部の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第83条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・学部の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	従来から慣行に基づく運用がなされておりそれが規範として機能してきた。慣行という規範にもとづく柔軟な対応がなされてきたといえる。	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	1-5G	<p>【研究科】 研究科の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	従来から慣行に基づく運用がなされておりそれが規範として機能してきた。慣行という規範にもとづく柔軟な対応がなされてきたといえる。	6/8学部自己点検委員会	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	1-6U	<p>【学部】 学部の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第83条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・学部の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	従来から慣行に基づく運用がなされておりそれが規範として機能してきた。慣行という規範にもとづく柔軟な対応がなされてきたといえる。	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末
	1-6G	<p>【研究科】 研究科の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	従来から慣行に基づく運用がなされておりそれが規範として機能してきた。慣行という規範にもとづく柔軟な対応がなされてきたといえる。	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末

法学部・法学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	1-2U	【学部】 学部・学科ごとの「教育研究上の目的」が学則に 定められていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学学則	なし	年度初め
	1-2G	【研究科】 研究科・専攻ごとの「教育研究上の目的」が学則 に定められていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則	なし	年度初め
(2)	1-4U	【学部】 「教育研究上の目的」は、公的な刊行物、ホーム ページ等によって周知・公表されていますか。	2016	○	【学部】 学部パンフレット (2016 年度) 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016.3.31.) 大学ホームページ「教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html 確認日:(2016.04.01.) 学部ホームページ	なし	年度初め
	1-4G	【研究科】 「教育研究上の目的」は、公的な刊行物、ホーム ページ等によって周知・公表されていますか。	2016	○	【研究科】 研究科パンフレット (2016 年度) 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016.04.01.) 大学ホームページ「教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html 確認日:(2016.04.01.) 研究科ホームページ	なし	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	1-5U	<p>【学部】 学部の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第83条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・学部の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【学部】 大学学則第13条第4項第11号 検証会議体:教授会</p>	<p>【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()</p>	年度初め
	1-5G	<p>【研究科】 研究科の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第7号 検証会議体:研究科教授会</p>	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()</p>	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	1-6U	<p>【学部】 学部の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第83条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・学部の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	×	<p>【学部】 第●回教授会議題・議事録等 検証会議体:教授会</p>	<p>【学部】 委任先議題・議事録等</p>	年度末
	1-6G	<p>【研究科】 研究科の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	×	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第●回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会</p>	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等</p>	年度末

経営学部・経営学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
 経営学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	1-2U	【学部】 学部・学科ごとの「教育研究上の目的」が学則に 定められていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学学則	なし	年度初め
	1-2G	【研究科】 研究科・専攻ごとの「教育研究上の目的」が学則 に定められていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則	なし	年度初め
(2)	1-4U	【学部】 「教育研究上の目的」は、公的な刊行物、ホーム ページ等によって周知・公表されていますか。	2016	○	【学部】 学部パンフレット (2016 年度) 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016年6月7日) 大学ホームページ「教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html 確認日:(2016年6月7日) 学部ホームページ	なし	年度初め
	1-4G	【研究科】 「教育研究上の目的」は、公的な刊行物、ホーム ページ等によって周知・公表されていますか。	2016	○	【研究科】 研究科パンフレット (2016 年度) 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016年6月7日) 大学ホームページ「教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html 確認日:(2016年6月7日) 研究科ホームページ	なし	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
 経営学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	1-5U	<p>【学部】 学部の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第83条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・学部の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【学部】 大学学則第13条第4項第11号 検証会議体:教授会</p>	<p>【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()</p>	年度初め
	1-5G	<p>【研究科】 研究科の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第7号 検証会議体:研究科教授会</p>	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()</p>	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
 経営学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	1-6U	<p>【学部】 学部の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第83条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・学部の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【学部】 第13回・第14回教授会議題・議事録等 検証会議体:教授会</p>	<p>【学部】 委任先議題・議事録等</p>	年度末
	1-6G	<p>【研究科】 研究科の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第11回・第12回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会</p>	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等</p>	年度末

国際政治経済学部・国際政治経済学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	1-2U	【学部】 学部・学科ごとの「教育研究上の目的」が学則に 定められていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学学則	なし	年度初め
	1-2G	【研究科】 研究科・専攻ごとの「教育研究上の目的」が学則 に定められていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則	なし	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	1-4U	【学部】 「教育研究上の目的」は、公的な刊行物、ホームページ等によって周知・公表されていますか。	2016	○	【学部】 『青山学院大学学則』(38頁) 別記(第4条の2関係)「学部又は学科の教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/data/pdf/daigaku_gakusoku2016.pdf 確認日:(2016/5/15) 大学ホームページ「教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/sippec/objective.html#anchor_purpose 確認日:(2016/5/15) 学部ホームページ http://www.sippec.aoyama.ac.jp/about/rinen.html 確認日:(2016/5/15)	なし	年度初め
	1-4G	【研究科】 「教育研究上の目的」は、公的な刊行物、ホームページ等によって周知・公表されていますか。	2016	○	【研究科】 『青山学院大学大学院学則』(29頁)別記(第5条の2関係)「研究科又は専攻の教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/data/pdf/daigakuin_gakusoku2016.pdf 確認日:(2016/5/15) 大学ホームページ「教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_sippec/objective.html#anchor_purpose 確認日:(2016/5/15)	なし	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	1-5U	<p>【学部】 学部の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第83条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・学部の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【学部】 大学学則第13条第4項第11号 検証会議体:教授会</p>	<p>【学部】 委任に関する申し合わせ等:2016年5月25日付2016年度国際政治経済学部第3回教授会協議事項2. 左記検証会議体からの委任先:主任会 手続:2016年6月8日付2016年度第4回国際政治経済学部・研究科主任会議題2「青山学院大学国際政治経済学部・研究科主任会における自己点検・評価の検証事項に関する手続(案)」</p>	年度初め
	1-5G	<p>【研究科】 研究科の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第7号 検証会議体:研究科教授会</p>	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等:2016年5月25日付2016年度国際政治経済学研究科第3回教授会協議事項5. 左記検証会議体からの委任先:主任会 手続:2016年6月8日付2016年度第4回国際政治経済学部・研究科主任会議題2「青山学院大学国際政治経済学部・研究科主任会における自己点検・評価の検証事項に関する手続(案)」</p>	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	1-6U	<p>【学部】 学部の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第83条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・学部の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○		<p>【学部】 2016年度第17回国際政治経済学部・研究科主任会記録議題2.「自己点検・評価の証事項に関する回答(案)」別添参考資料2</p>	年度末
	1-6G	<p>【研究科】 研究科の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○		<p>【研究科】 2016年度第17回国際政治経済学部・研究科主任会記録議題2.「自己点検・評価の証事項に関する回答(案)」別添参考資料2</p>	年度末

総合文化政策学部・総合文化政策学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	1-2U	【学部】 学部・学科ごとの「教育研究上の目的」が学則に定められていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学学則	なし	年度初め
	1-2G	【研究科】 研究科・専攻ごとの「教育研究上の目的」が学則に定められていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則	なし	年度初め
(2)	1-4U	【学部】 「教育研究上の目的」は、公的な刊行物、ホームページ等によって周知・公表されていますか。	2016	○	【学部】 学部パンフレット (年度) 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016年4月19日) 大学ホームページ「教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html 確認日:(2016年4月19日) 学部ホームページ	なし	年度初め
	1-4G	【研究科】 「教育研究上の目的」は、公的な刊行物、ホームページ等によって周知・公表されていますか。	2016	○	【研究科】 研究科パンフレット (年度) 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016年5月31日) 大学ホームページ「教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html 確認日:(2016年5月31日) 研究科ホームページ	なし	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	1-5U	<p>【学部】 学部の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第83条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・学部の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【学部】 大学学則第13条第4項第11号 検証会議体:教授会</p>	<p>【学部】 委任に関する申し合わせ等 :2016年5月25日付承認 左記検証会議体からの委任先 :(学部・研究科合同主任会)</p>	年度初め
	1-5G	<p>【研究科】 研究科の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第7号 検証会議体:研究科教授会</p>	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()</p>	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	1-6U	<p>【学部】 学部の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第83条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・学部の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【学部】 第17回教授会議議事録等 検証会議体:教授会</p>	<p>【学部】 委任先議事録等</p>	年度末
	1-6G	<p>【研究科】 研究科の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第●回研究科教授会議議事録等 検証会議体:研究科教授会 (第17回学部教授会で研究科分も実施)</p>	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任先議事録等</p>	年度末

理工学部・理工学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会
担当部署/担当者: 学務部
評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	1-2U	【学部】 学部・学科ごとの「教育研究上の目的」が学則に 定められていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学学則	なし	年度初め
	1-2G	【研究科】 研究科・専攻ごとの「教育研究上の目的」が学則 に定められていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則	なし	年度初め
(2)	1-4U	【学部】 「教育研究上の目的」は、公的な刊行物、ホーム ページ等によって周知・公表されていますか。	2016	○	【学部】 学部パンフレット (2016年度) 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(20160414) 大学ホームページ「教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html 確認日:(20160414) 学部ホームページ	なし	年度初め
	1-4G	【研究科】 「教育研究上の目的」は、公的な刊行物、ホーム ページ等によって周知・公表されていますか。	2016	○	【研究科】 研究科パンフレット (2016年度) 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2015年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(20160416) 大学ホームページ「教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html 確認日:(20160416)	なし	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会
担当部署/担当者: 学務部
評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	1-5U	<p>【学部】 学部の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第83条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・学部の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【学部】 大学学則第13条第4項第11号 検証会議体:教授会</p>		年度初め
	1-5G	<p>【研究科】 研究科の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第7号 検証会議体:研究科教授会</p>	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :2016年5月11日付承認 左記検証会議体からの委任先 専攻全体:コース教務主任会議 コース会議</p>	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会
担当部署/担当者: 学務部
評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	1-6U	<p>【学部】 学部の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第83条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・学部の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【学部】 第8回教授会議題・議事録等 検証会議体:教授会 2016年9月28日</p>	<p>【学部】 委任先議題・議事録等 学科主任会 2016年9月27日</p> <p>物数: 化学:× 電気:第10回 平成28年9月14日 報告事項(8)その他 ○電気電子工学科および電気電子工学コースの3ポリシー原案提示、第11回 平成28年9月28日 報告事項(4)3ポリシー案、第15回 平成28年11月30日 報告事項(9)3ポリシーに関する件 機械:第17回教室会議メモ2017/2/27 経シス:第5回学科会議議事録:2016年6月8日</p>	年度末
	1-6G	<p>【研究科】 研究科の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第8回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会 2016年9月28日</p>	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等 第11回専攻コース主任会 2016年9月28日</p> <p>化学:議事メモ2016.2. 電気電子:第10回 平成28年9月14日 報告事項(8)その他 ○電気電子工学科および電気電子工学コースの3ポリシー原案提示、第11回 平成28年9月28日 報告事項(4)3ポリシー案、第15回 平成28年11月30日 報告事項(9)3ポリシーに関する件 機械:第17回教室会議メモ2017/2/27 マネテク:第5回学科会議議事録:2016年6月8日 知能情報:【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 基礎科学:コース会議議事録 2017/02/17 機能物質:会議第五回議事録 2017.2.20/議事録送信3.20 生命科学:×</p>	年度末

社会情報学部・社会情報学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務課(相)
 評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	1-2U	【学部】 学部・学科ごとの「教育研究上の目的」が学則に 定められていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学学則	なし	年度初め
	1-2G	【研究科】 研究科・専攻ごとの「教育研究上の目的」が学則 に定められていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則	なし	年度初め
(2)	1-4U	【学部】 「教育研究上の目的」は、公的な刊行物、ホーム ページ等によって周知・公表されていますか。	2016	○	【学部】 学部パンフレット (2016 年度) 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016.4.26) 大学ホームページ「教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/ssi/objective.html#anch or_purpose 確認日:(2017.4.13) 学部ホームページ	なし	年度初め
	1-4G	【研究科】 「教育研究上の目的」は、公的な刊行物、ホーム ページ等によって周知・公表されていますか。	2016	○	【研究科】 研究科パンフレット (年度) 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.ht ml 確認日:(2016年4月28日) 大学ホームページ「教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/ purpose.html 確認日:(2016年4月28日) 研究科ホームページ	なし	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務課(相)
 評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	1-5U	<p>【学部】 学部の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第83条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・学部の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【学部】 大学学則第13条第4項第11号 検証会議体:教授会</p>	<p>【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()</p>	年度初め
	1-5G	<p>【研究科】 研究科の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第7号 検証会議体:研究科教授会</p>	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()</p>	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務課(相)
 評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	1-6U	<p>【学部】 学部の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第83条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・学部の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【学部】 第13回教授会議題・議事録等 検証会議体:教授会</p>	<p>【学部】 委任先議題・議事録等</p>	年度末
	1-6G	<p>【研究科】 研究科の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第13回教授会議題・議事録等 検証会議体:学部教授会</p>	<p>【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等</p>	年度末

地球社会共生学部

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 地球社会共生学部自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(1)	1-2U	【学部】 学部・学科ごとの「教育研究上の目的」が学則に 定められていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学学則	なし	年度初め
(2)	1-4U	【学部】 「教育研究上の目的」は、公的な刊行物、ホーム ページ等によって周知・公表されていますか。	2016	○	【学部】 学部パンフレット (2015年度) 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/ 確認日:(2016/05/13) 大学ホームページ「教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html 確認日:(2016/05/13) 学部ホームページ	なし	年度初め
(3)	1-5U	【学部】 学部の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適 切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会 等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・学校教育法第83条や大学基準協会の定める 大学基準等に照らして適切か ・学部の目指すべき方向性等を明らかにしてい るか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性 など	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第11号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :2016年4月20日付承認 左記検証会議体からの委任先 :(主任会)	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 地球社会共生学部自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 〔・会議開催日 等を記入〕	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 〔・会議開催日 等を記入〕	チェック 可能時期
(4)	1-6U	<p>【学部】 学部の理念・目的(「教育研究上の目的」)の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第83条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・学部の目指すべき方向性等を明らかにしているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性など</p>	2016	○	<p>【学部】 第16回教授会議題・議事録等 検証会議体:教授会</p>	<p>【学部】 委任先議題・議事録等 第16回主任会(2017年1月18日) 「2016年度地球社会共生学部自己点検評価に関する主任会による検証について」</p>	年度末

国際マネジメント研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	1-2G	【研究科】 研究科・専攻ごとの「教育研究上の目的」が学則 に定められていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則	なし	年度初め
(2)	1-4G	【研究科】 「教育研究上の目的」は、公的な刊行物、ホーム ページ等によって周知・公表されていますか。	2016	○	【研究科】 研究科パンフレット (2016 年度) 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016/6/3) 大学ホームページ「教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html 確認日:(2016/6/1) 研究科ホームページ	なし	年度初め
(3)	1-5G	【研究科】 研究科の理念・目的(「教育研究上の目的」)の 適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員 会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める 大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにして いるか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性 など	2016	○	【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第10号 検証会議体:研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第7号 検証会議体:研究科教授会	【専門職】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :() 【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	1-6G	<p>【研究科】 研究科の理念・目的(「教育研究上の目的」)の 適切性(※)は、明文化された手続きに従って定 期的に検証されましたか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める 大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにして いるか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性 など</p>	2016	○	<p>【専門職】 研究科教授会議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会</p> <p>【博士後期・一貫制博士】 研究科教授会議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会</p>	<p>【専門職】 2017年度第2回国際マネジメント研究科教授会議 事録 委任に関する申し合わせ等 :2017年5月24日付承認 左記検証会議体からの委任先 :(国際マネジメント研究科自己点検・評価委員 会)</p> <p>【博士後期・一貫制博士】 2017年度第2回国際マネジメント研究科教授会議 事録 委任に関する申し合わせ等 :2017年5月24日付承認 左記検証会議体からの委任先 :国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会)</p>	年度末

法務研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法務研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部専門職大学院教務課

評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	1-2G	【研究科】 研究科・専攻ごとの「教育研究上の目的」が学則 に定められていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則	なし	年度初め
(2)	1-4G	【研究科】 「教育研究上の目的」は、公的な刊行物、ホーム ページ等によって周知・公表されていますか。	2016	○	【研究科】 研究科パンフレット (2016 年度) 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016 年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(6/9) 大学ホームページ「教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html 確認日:(6/9)	法科大学院要覧(2016年度) 法務研究科入学試験要項(2017年度)	年度初め
(3)	1-5G	【研究科】 研究科の理念・目的(「教育研究上の目的」)の 適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員 会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める 大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにして いるか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性 など	2016	○	【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第10号 検証会議体:研究科教授会	【専門職】 青山学院大学大学院法務研究科主任会規程 検証会議体:(法務研究科主任会)	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法務研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部専門職大学院教務課

評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入	チェック 可能時期
(4)	1-6G	<p>【研究科】 研究科の理念・目的(「教育研究上の目的」)の 適切性(※)は、明文化された手続きに従って定 期的に検証されましたか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める 大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにし ているか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性 など</p>	2016	○		<p>【研究科】 検証会議体:(法務研究科主任会)</p>	年度末

会計プロフェッション研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	1-2G	【研究科】 研究科・専攻ごとの「教育研究上の目的」が学則 に定められていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則	なし	年度初め
(2)	1-4G	【研究科】 「教育研究上の目的」は、公的な刊行物、ホーム ページ等によって周知・公表されていますか。	2016	○	【研究科】 研究科パンフレット (2016年度) 大学ホームページ「授業要覧(履修ガイド)」 (2016年度) http://www.aoyama.ac.jp/faculty/study_guide/graduate.html 確認日:(2016年5月23日) 大学ホームページ「教育研究上の目的」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/education/purpose.html 確認日:(2016年5月23日) 研究科ホームページ	なし	年度初め
(3)	1-5G	【研究科】 研究科の理念・目的(「教育研究上の目的」)の 適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員 会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める 大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにして いるか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性 など	2016	○	【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第10号 検証会議体:研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第7号 検証会議体:研究科教授会		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	1-6G	<p>【研究科】 研究科の理念・目的(「教育研究上の目的」)の 適切性(※)は、明文化された手続きに従って定 期的に検証されましたか。</p> <p>※適切性の視点 ・学校教育法第99条や大学基準協会の定める 大学基準等に照らして適切か ・研究科の目指すべき方向性等を明らかにして いるか ・大学の理念・目的や社会の要請との適合性 など</p>	2016	○	<p>【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第10号 2016年度第3回研究科教授会報告事項1および2、第5回 研究科教授会報告事項6、第7回研究科教授会協議事項 5、第15回研究科教授会報告事項14、第17回研究科教授 会報告事項5、2017年度第3回研究科教授会協議事項4～ 6 検証会議体: 研究科教授会</p> <p>【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第7号 検証会議体: 研究科教授会</p>	<p>【専門職】 「青山学院大学会計プロフェッション研究科2016 年度自己点検評価報告書」 2016年度第5回教員FD研修会(2017年3月25日)</p> <p>【博士後期・一貫制博士】 「青山学院大学会計プロフェッション研究科2016 年度自己点検評価報告書」</p>	年度末

全学自己点検・評価委員会

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 全学自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 政策・企画部

評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	1-1W	【大学全体】 本学の理念・目的(「青山学院教育方針」および「青山学院大学の理念」)が定められていますか。	2016	○	【大学全体】 大学ホームページ「教育方針・理念・スクールモットー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/ideal/ 確認日:(2016/5/18)		年度初め
(2)	1-3W1	【大学全体】 「青山学院教育方針」および「青山学院大学の理念」は、公的な刊行物、ホームページ等によって周知・公表されていますか。	2016	○	【大学全体】 大学ホームページ「教育方針・理念・スクールモットー」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/ideal/ 確認日:(2016/5/18) 大学事務案内 (2016年度)1ページ らいふいんあおやま 学生生活の手引き (2016年度)扉裏、1ページ 青山学院大学大学案内2016		年度初め
(3)	1-5W	【大学全体】 本学の理念・目的(「青山学院教育方針」および「青山学院大学の理念」)の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・学校教育法第83条、第99条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・建学の精神や社会の要請との適合性 など	2016	×		【大学全体】 関連規則等 検証会議体:()	年度初め
(4)	1-6W	【大学全体】 本学の理念・目的(「青山学院教育方針」および「青山学院大学の理念」)の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・学校教育法第83条、第99条や大学基準協会の定める大学基準等に照らして適切か ・建学の精神や社会の要請との適合性 など	2016	×		【大学全体】 2016年度第5回全学自己点検・評価委員会(2017年2月28日開催)資料3及び同委員会記録	年度末

大学主教主任会

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 大学宗教主任会

担当部署/担当者: 宗教センター、宗教センター相模原分室

評価基準: 1(理念・目的)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日・会議開催日等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日・会議開催日等を記入)	チェック可能時期
(1)	1-3W2	【大学全体】 「建学の精神」を、大学構成員(教職員および学生)に周知するための取り組みを行いましたか。	2016	○		大学礼拝週報 学院礼拝(新年礼拝、新学年度礼拝、創立記念礼拝)ホームページ「2016年度ニュース一覧」 クリスマス献金 https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/christ/2016Christmas_kenkin_houkoku.pdf キリスト教学校教育同盟発行の新聞「キリスト教学校教育」 キリスト教学校教育同盟主催の教員、事務向けの研修要項	年度末

2016年度 自己点検・評価結果

基準2 教育研究組織

文学部・文学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
 文学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 2(教育研究組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	2-2U	【学部】 学科および附置研究所・センター等の教育研究組織は、学部の「教育研究上の目的」を実現するためにふさわしい組織となっていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学学則 各研究所・センター規則・要綱など 大学資料集「庶務課1 設置学部・学科・大学院研究科」 大学資料集「庶務課2 教育・研究組織」 確認日:(2016/5/28)		年度初め
	2-2G	【研究科】 専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、研究科の「教育研究上の目的」を実現するためにふさわしい組織となっていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学学則 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則 各研究所・センター規則・要綱など 大学資料集「庶務課1 設置学部・学科・大学院研究科」 大学資料集「庶務課2 教育・研究組織」 確認日:(2016.5.30)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
 文学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 2(教育研究組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	2-3U1	【学部】 教育研究組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、学部の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第11号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	2-3G1	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第7号 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	2-3U2	【学部】 教育研究組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、学部の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	×	【学部】 第●回教授会議題・議事録等 検証会議体:教授会	【学部】 委任先議題・議事録等	年度末
	2-3G2	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	×	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第●回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等	年度末

教育人間科学部・教育人間科学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務部
 評価基準： 2（教育研究組織）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(1)	2-2U	【学部】 学科および附置研究所・センター等の教育研究組織は、学部の「教育研究上の目的」を実現するためにふさわしい組織となっていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学学則 各研究所・センター規則・要綱など 大学資料集「庶務課1 設置学部・学科・大学院研究科」 大学資料集「庶務課2 教育・研究組織」		年度初め
	2-2G	【研究科】 専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、研究科の「教育研究上の目的」を実現するためにふさわしい組織となっていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学学則 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則 各研究所・センター規則・要綱など 大学資料集「庶務課1 設置学部・学科・大学院研究科」 大学資料集「庶務課2 教育・研究組織」		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務部
 評価基準： 2（教育研究組織）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(2)	2-3U1	【学部】 教育研究組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、学部の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第11号 検証会議体:教授会		年度初め
	2-3G1	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第7号 検証会議体:研究科教授会		年度初め
	2-3U2	【学部】 教育研究組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、学部の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【学部】 第●回教授会議題・議事録等 検証会議体:教授会	【学部】 第19回教育人間科学部教授会(2017.3.10)資料)	年度末
	2-3G2	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第●回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第19回教育人間科学部教授会(2017.3.10)資料)	年度末

経済学部・経済学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 2(教育研究組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	2-2U	【学部】 学科および附置研究所・センター等の教育研究組織は、学部の「教育研究上の目的」を実現するためにふさわしい組織となっていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学学則 各研究所・センター規則・要綱など 大学資料集「庶務課1 設置学部・学科・大学院研究科」 大学資料集「庶務課2 教育・研究組織」2016/6/4確認	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	2-2G	【研究科】 専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、研究科の「教育研究上の目的」を実現するためにふさわしい組織となっていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学学則 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則 各研究所・センター規則・要綱など 大学資料集「庶務課1 設置学部・学科・大学院研究科」 大学資料集「庶務課2 教育・研究組織」2016/6/4確認	6/8学部自己点検委員会	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 2(教育研究組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	2-3U1	【学部】 教育研究組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、学部の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	従来から慣行に基づく柔軟な運用がなされており、それが規範として確立していた。	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	2-3G1	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	従来から慣行に基づく柔軟な運用がなされており、それが規範として確立していた。	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	2-3U2	【学部】 教育研究組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、学部の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	従来から慣行に基づく柔軟な運用がなされており、それが規範として確立していた。	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末
	2-3G2	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	従来から慣行に基づく柔軟な運用がなされており、それが規範として確立していた。	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末

法学部・法学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 2(教育研究組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	2-2U	【学部】 学科および附置研究所・センター等の教育研究組織は、学部の「教育研究上の目的」を実現するためにふさわしい組織となっていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学学則 各研究所・センター規則・要綱など 大学資料集「庶務課1 設置学部・学科・大学院研究科」 大学資料集「庶務課2 教育・研究組織」		年度初め
	2-2G	【研究科】 専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、研究科の「教育研究上の目的」を実現するためにふさわしい組織となっていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学学則 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則 各研究所・センター規則・要綱など 大学資料集「庶務課1 設置学部・学科・大学院研究科」 大学資料集「庶務課2 教育・研究組織」		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 2(教育研究組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	2-3U1	【学部】 教育研究組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、学部の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第11号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	2-3G1	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第7号 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	2-3U2	【学部】 教育研究組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、学部の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	×	【学部】 第●回教授会議題・議事録等 検証会議体:教授会	【学部】 委任先議題・議事録等	年度末
	2-3G2	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	×	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第●回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等	年度末

経営学部・経営学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
 経営学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 2(教育研究組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	2-2U	【学部】 学科および附置研究所・センター等の教育研究組織は、学部の「教育研究上の目的」を実現するためにふさわしい組織となっていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学学則 各研究所・センター規則・要綱など 大学資料集「庶務課1 設置学部・学科・大学院研究科」 大学資料集「庶務課2 教育・研究組織」		年度初め
	2-2G	【研究科】 専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、研究科の「教育研究上の目的」を実現するためにふさわしい組織となっていますか。	2016	×	【研究科】 青山学院大学学則 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則 各研究所・センター規則・要綱など 大学資料集「庶務課1 設置学部・学科・大学院研究科」 大学資料集「庶務課2 教育・研究組織」		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
 経営学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 2(教育研究組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	2-3U1	【学部】 教育研究組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、学部の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第11号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	2-3G1	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第7号 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	2-3U2	【学部】 教育研究組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、学部の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	×	【学部】 第●回教授会議題・議事録等 検証会議体:教授会	【学部】 委任先議題・議事録等	年度末
	2-3G2	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	×	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第●回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等	年度末

国際政治経済学部・国際政治経済学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 2(教育研究組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	2-2U	【学部】 学科および附置研究所・センター等の教育研究組織は、学部の「教育研究上の目的」を実現するためにふさわしい組織となっていますか。	2016	○	【学部】 『青山学院大学国際政治経済学部附置国際研究センター要綱』 https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/soumu/JoureiV5HTMLContents/act/frame/frame110000187.htm 大学資料集「庶務課1 設置学部・学科・大学院研究科」 https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenkenhyouka/shiryoushu/shiryo2016/1.shomuka/shomuka1.pdf 大学資料集「庶務課2 教育・研究組織」 https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenkenhyouka/shiryoushu/shiryo2016/1.shomuka/shomuka2.pdf		年度初め
	2-2G	【研究科】 専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、研究科の「教育研究上の目的」を実現するためにふさわしい組織となっていますか。	2016	○	【研究科】 大学資料集「庶務課1 設置学部・学科・大学院研究科」 https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenkenhyouka/shiryoushu/shiryo2016/1.shomuka/shomuka1.pdf 大学資料集「庶務課2 教育・研究組織」 https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenkenhyouka/shiryoushu/shiryo2016/1.shomuka/shomuka2.pdf		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 2(教育研究組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	2-3U1	【学部】 教育研究組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、学部の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第11号 検証会議体: 教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等: 2016年5月25日付 2016年度国際政治経済学部第3回教授会協議事項2. 左記検証会議体からの委任先: 主任会 手続: 2016年6月8日付2016年度第4回国際政治経済学部・研究科主任会議題2.「青山学院大学国際政治経済学部・研究科主任会における自己点検・評価の検証事項に関する手続(案)」	年度初め
	2-3G1	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第7号 検証会議体: 研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等: 2016年5月25日付 2016年度国際政治経済学部第3回教授会協議事項5. 左記検証会議体からの委任先: 主任会 手続: 2016年6月8日付2016年度第4回国際政治経済学部・研究科主任会議題2.「青山学院大学国際政治経済学部・研究科主任会における自己点検・評価の検証事項に関する手続(案)」	年度初め
	2-3U2	【学部】 教育研究組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、学部の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○		【学部】 2016年度第17回国際政治経済学部・研究科主任会記録議題2.「自己点検・評価の証事項に関する回答(案)」別添参考資料2	年度末
	2-3G2	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○		【研究科】 2016年度第17回国際政治経済学部・研究科主任会記録議題2.「自己点検・評価の証事項に関する回答(案)」別添参考資料2	年度末

総合文化政策学部・総合文化政策学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 2(教育研究組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	2-2U	【学部】 学科および附置研究所・センター等の教育研究組織は、学部の「教育研究上の目的」を実現するためにふさわしい組織となっていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学学則 各研究所・センター規則・要綱など 大学資料集「庶務課1 設置学部・学科・大学院研究科」 大学資料集「庶務課2 教育・研究組織」	青山学院大学総合文化政策学部附置青山コミュニティ・ラボ規則	年度初め
	2-2G	【研究科】 専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、研究科の「教育研究上の目的」を実現するためにふさわしい組織となっていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学学則 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則 各研究所・センター規則・要綱など 大学資料集「庶務課1 設置学部・学科・大学院研究科」 大学資料集「庶務課2 教育・研究組織」	青山学院大学総合文化政策学部附置青山コミュニティ・ラボ規則	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 2(教育研究組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	2-3U1	【学部】 教育研究組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、学部の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第11号 検証会議体: 教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :2016年5月25日付承認 左記検証会議体からの委任先 :(学部・研究科合同主任会)	年度初め
	2-3G1	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第7号 検証会議体: 研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	2-3U2	【学部】 教育研究組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、学部の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【学部】 第17回教授会議議題・議事録等 検証会議体: 教授会	【学部】 委任先議題・議事録等	年度末
	2-3G2	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第●回研究科教授会議議題・議事録等 検証会議体: 研究科教授会 (第17回学部教授会で研究科分も実施)	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等	年度末

理工学部・理工学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会
担当部署/担当者: 学務課(相)
評価基準: 2(教育研究組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	2-2U	【学部】 学科および附置研究所・センター等の教育研究組織は、学部の「教育研究上の目的」を実現するためにふさわしい組織となっていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学学則 各研究所・センター規則・要綱など 大学資料集「庶務課1 設置学部・学科・大学院研究科」 大学資料集「庶務課2 教育・研究組織」		年度初め
	2-2G	【研究科】 専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、研究科の「教育研究上の目的」を実現するためにふさわしい組織となっていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学学則 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則 各研究所・センター規則・要綱など 大学資料集「庶務課1 設置学部・学科・大学院研究科」 大学資料集「庶務課2 教育・研究組織」		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 2(教育研究組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	2-3U1	【学部】 教育研究組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、学部の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第11号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :2016年4月20日付承認 左記検証会議体からの委任先 主任会議	年度初め
	2-3G1	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第7号 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :2016年5月11日付承認 左記検証会議体からの委任先 専攻コース教務主任会議	年度初め
	2-3U2	【学部】 教育研究組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、学部の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【学部】 第8回教授会議議題・議事録等 検証会議体:教授会 2016年9月28日	【学部】 委任先議題・議事録等 主任会議 2016年9月27日	年度末
	2-3G2	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第8回研究科教授会議議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第11回専攻コース主任会 2016年9月28日 機能物質:2017年2月20日 コース会議	年度末

社会情報学部・社会情報学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務課(相)
 評価基準: 2(教育研究組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	2-2U	【学部】 学科および附置研究所・センター等の教育研究組織は、学部の「教育研究上の目的」を実現するためにふさわしい組織となっていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学学則 各研究所・センター規則・要綱など 大学資料集「庶務課1 設置学部・学科・大学院研究科」 大学資料集「庶務課2 教育・研究組織」	主任会・研究センター運営委員会 会議議事 毎月 2回～3回 開催 例: 第19回 2015年度社会情報学部主任会議題 (2016.2.12)	年度初め
	2-2G	【研究科】 専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、研究科の「教育研究上の目的」を実現するためにふさわしい組織となっていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学学則 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則 各研究所・センター規則・要綱など 大学資料集「庶務課1 設置学部・学科・大学院研究科」 大学資料集「庶務課2 教育・研究組織」	主任会・研究センター運営委員会 会議議事 毎月 2回～3回 開催 例: 第19回 2015年度社会情報学部主任会議題 (2016.2.12)	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務課(相)
 評価基準: 2(教育研究組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	2-3U1	【学部】 教育研究組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、学部の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第11号 検証会議体: 教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 : ●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	2-3G1	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第7号 検証会議体: 研究科教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 : ●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	2-3U2	【学部】 教育研究組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、学部の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【学部】 第13回教授会議題・議事録等 検証会議体: 教授会	【学部】 委任先議題・議事録等	年度末
	2-3G2	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 第13回教授会議題・議事録等 検証会議体: 学部教授会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等	年度末

地球社会共生学部

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 地球社会共生学部自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 2(教育研究組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	2-2U	【学部】 学科および附置研究所・センター等の教育研究組織は、学部の「教育研究上の目的」を実現するためにふさわしい組織となっていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学学則 各研究所・センター規則・要綱など 大学資料集「庶務課1 設置学部・学科・大学院研究科」 大学資料集「庶務課1 教育・研究組織」 学部HP(学部紹介) http://www.gsc.aoyama.ac.jp/introduction/ 確認日:(2016/05/13) 学部パンフレット(2015年度)		年度初め
(2)	2-3U1	【学部】 教育研究組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、学部の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【学部】 大学学則第13条第4項第11号 検証会議体:教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :2016年4月20日付承認 左記検証会議体からの委任先 :(主任会)	年度初め
	2-3U2	【学部】 教育研究組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、学部の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【学部】 第16回教授会議題・議事録等 検証会議体:教授会	【学部】 委任先議題・議事録等 第16回主任会 「2016(平成28)年度 後期 地球社会共生学部 諸委員(案)について」(2017/01/18)	年度末

国際マネジメント研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 2(教育研究組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	2-2G	【研究科】 専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、研究科の「教育研究上の目的」を実現するためにふさわしい組織となっていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学学則 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則 各研究所・センター規則・要綱など 大学資料集「庶務課1 設置学部・学科・大学院研究科」 大学資料集「庶務課2 教育・研究組織」		年度初め
(2)	2-3G1	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第10号 検証会議体:研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第7号 検証会議体:研究科教授会	【専門職】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :() 【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	2-3G2	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【専門職】 2017年度第3回研究科教授会議事録等 検証会議体:研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 2017年度第3回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会	(専門職) 2017年度第2回国際マネジメント研究科教授会議事録 委任に関する申し合わせ等 2017年5月24日承認 左記検証会議体からの委任先 (国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会) (博士後期・一貫制博士) 2017年度第2回国際マネジメント研究科教授会議事録	年度末

法務研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 法務研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部専門職大学院教務課

評価基準： 2(教育研究組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入〕	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 〔資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入〕	チェック 可能時期
(1)	2-2G	【研究科】 専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、研究科の「教育研究上の目的」を実現するためにふさわしい組織となっていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学専門職大学院学則 大学資料集「庶務課1 設置学部・学科・大学院研究科」 大学資料集「庶務課2 教育・研究組織」		年度初め
(2)	2-3G1	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第10号 検証会議体:研究科教授会	【専門職】 青山学院大学大学院法務研究科主任会規程 検証会議体:(法務研究科主任会)	年度初め
	2-3G2	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○			年度末

会計プロフェッション研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部

評価基準: 2(教育研究組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	2-2G	【研究科】 専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、研究科の「教育研究上の目的」を実現するためにふさわしい組織となっていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学学則 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則 各研究所・センター規則・要綱など 大学資料集「庶務課1 設置学部・学科・大学院研究科」 大学資料集「庶務課2 教育・研究組織」		年度初め
(2)	2-3G1	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第10号 検証会議体: 研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第7号 検証会議体: 研究科教授会		年度初め
	2-3G2	【研究科】 教育研究組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」、研究科の「教育研究上の目的」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	○	【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第10号 2016年度第5回研究科教授会報告事項6、第7回研究科教授会協議事項5、第15回研究科教授会報告事項14、2017年度第3回研究科教授会協議事項4~6 検証会議体: 研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第69条第1項第7号 2016年度第1回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体: 研究科教授会	【専門職】 「青山学院大学会計プロフェッション研究科2016年度自己点検評価報告書」 2016年度第5回教員FD研修会(2017年3月25日) 【博士後期・一貫制博士】 「青山学院大学会計プロフェッション研究科2016年度自己点検評価報告書」	年度末

庶務部

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 庶務部

評価基準: 2(教育研究組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	2-2W	【大学全体】 学部・研究科および研究所・センター等の教育研究組織は、「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」を実現するためにふさわしい組織となっていますか。	2016	○	【大学全体】 青山学院大学学則 青山学院大学大学院学則 青山学院大学専門職大学院学則 各研究所・センター規則・要綱など 大学資料集「庶務課1 設置学部・学科・大学院研究科」 大学資料集「庶務課2 教育・研究組織」		年度初め
(2)	2-3W1	【大学全体】 教育研究組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	×	【大学全体】 各研究所・センター規則・要綱など	【大学全体】 青山学院大学自己点検・評価規則 青山学院大学自己点検・評価に係る委員会規則	年度初め
	2-3W2	【大学全体】 教育研究組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証されましたか。 ※適切性の視点 ・「青山学院教育方針」や「青山学院大学の理念」との適合性 ・学術の進展や社会の要請との適合性 など	2016	×		【大学全体】 青山学院大学自己点検・評価規則 青山学院大学自己点検・評価に係る委員会規則	年度末

2016年度 自己点検・評価結果

基準3 教員・教員組織

文学部・文学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
 文学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	3-2U	【学部】 組織的な教育を実施する上において必要な役職 や諸委員が配置され、その責任の所在が明確に されていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学職制規則 確認日:(2016/5/28)		年度初め
	3-2G	【研究科】 組織的な教育を実施する上において必要な役職 や諸委員が配置され、その責任の所在が明確に されていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学職制規則 確認日:(2016.5.30)		年度初め
(2)	3-4U	【学部】 学部の教育研究上の目的を実現するために、学 部の教員組織の編制方針が定められ、かつ教 職員で共有していますか。	2016	○	【学部】 方針が記載されているとともに、教職員での共有状況が 分かる媒体等	2015/6/24の第5回教授会で教員組織の編制方針 (各学部・研究科)の策定について報告(第5回教 授会記録)。2015/9/30の第10回文学部教授会で 文学部の教員組織編成方針更新について報告 (第10回教授会記録)。	年度初め
	3-4G	【研究科】 研究科の教育研究上の目的を実現するために、 研究科の教員組織の編制方針が定められ、か つ教職員で共有していますか。	2016	○	【研究科】 方針が記載されているとともに、教職員での共有状況が 分かる媒体等	2015/6/24の第5回教授会で教員組織の編制方針 (各学部・研究科)の策定について報告(第5回教 授会記録)。	年度初め
(3)	3-5U	【学部】 法令(大学設置基準等)によって定められた学科 ごとに必要な専任教員数等が把握され、その数 は満たされていますか。	2016	○	【学部】 大学資料集「庶務課6 学部の教員組織」確認日: (2016.5.28)		年度初め
	3-5G	【研究科】 法令(大学院設置基準、専門職大学院設置基準 等)によって定められた専攻ごとに必要な専任教 員数等が把握され、その数は満たされています か。	2016	○	【研究科】 大学資料集「庶務課7 ★大学院研究科の教員組織」 大学資料集「庶務課8 ★専門職大学院の教員組織」確認 日:(2016.5.30)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
 文学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(4)	3-6U	<p>【学部】 学部単位で特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。</p> <p>※大学設置基準第7条第3項に則る。 ※以下を参考として用いる。 ・61歳以上が35%を超えていないか。 ・30歳以下、31～40歳、41～50歳、51～60歳、61歳以上でみたとき、各年代の全体に占める割合が30%を超えていないか。 ※ただし、教員組織の編制方針等で明示された事項に基づいて超過している場合は、その旨を備考欄に記載してください。</p>	2016	×	<p>【学部】 大学資料集「庶務課9 専任教員年齢構成」 確認日:(2016.5.29)</p>		年度初め
	3-6G	<p>【研究科】 研究科単位で特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。</p> <p>※大学院設置基準第8条第5項に則る。 ※以下を参考として用いる。 ・61歳以上が35%を超えていないか。 ・30歳以下、31～40歳、41～50歳、51～60歳、61歳以上でみたとき、各年代の全体に占める割合が30%を超えていないか。 ※ただし、教員組織の編制方針等で明示された事項に基づいて超過している場合は、その旨を備考欄に記載してください。</p>	2016	×	<p>【研究科】 大学資料集「庶務課9 専任教員年齢構成」確認日 (2016.5.30)</p>		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
 文学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	3-7U	<p>【学部】 教員組織の編制方針と実際の教員組織の編制 実態と整合性がとれていますか。</p> <p>※大学設置基準第7条第3項(大学は、教育研 究水準の維持向上及び教育研究の活性化を 図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著 しく偏ることのないよう配慮するものとする。)を踏 まえていること。</p>	2016	×	<p>【学部】 大学ホームページ「教員組織の編制方針」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy /academic.html/ 「専任教員紹介」 http://www.aoyama.ac.jp/research/staff/ 確認日:(2016.5.30)</p>		年度初め
	3-7G	<p>【研究科】 教員組織の編制方針と実際の教員組織の編制 実態と整合性がとれていますか。</p> <p>※大学院設置基準第8条第5項(大学院は、教育 研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を 図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に 著しく偏ることのないよう配慮するものとする。)を ふまえていること。</p>	2016	×	<p>【研究科】 大学ホームページ「専任教員紹介」 http://www.aoyama.ac.jp/research/staff/ 確認日:(2016.5.21)</p>		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 文学部自己点検・評価委員会
 文学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務部
 評価基準： 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	3-8U1	【学部】 教員の募集・採用について、学部独自の基準、 手続がある場合、それが明文化され、その適切 性・透明性が担保されるよう取り組みました か。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 学部独自の内規、とりきめ 等		年度末
	3-8G1	【研究科】 教員の募集・採用について、研究科独自の基 準、手続がある場合、それが明文化され、その 適切性・透明性が担保されるよう取り組みまし たか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 研究科独自の内規、とりきめ 等		年度末
	3-8U2	【学部】 教員の昇格について、学部独自の基準、手続が ある場合、それが明文化され、その適切性・透明 性が担保されるよう取り組みましたか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 学部独自の内規、とりきめ 等		年度末
	3-8G2	【研究科】 教員の昇格について、研究科独自の基準、手続 がある場合、それが明文化され、その適切性・透 明性が担保されるよう取り組みましたか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 研究科独自の内規、とりきめ 等		年度末
(7)	3-10U	【学部】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の 教育研究活動の業績を適切に評価する仕組み が機能しましたか。	2016	×			年度末
	3-10G	【研究科】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の 教育研究活動の業績を適切に評価する仕組み が機能しましたか。	2016	×			年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
 文学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(8)	3-11U1	【学部】 教員組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【学部】 大学学則第14条第4項 検証会議体:専任教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	3-11G1	【研究科】 教員組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第77条第1項第1号および第2号 検証会議体:博士前期課程委員会/修士課程委員会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第73条第1項第1号および第2号 検証会議体:博士後期課程委員会/博士課程委員会	【修士・博士前期】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :() 【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	3-11U2	【学部】 教員組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	×	【学部】 第●回専任教授会議題・議事録等 検証会議体:専任教授会	【学部】 委任先議題・議事録等	年度末
	3-11G2	【研究科】 教員組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	×	【修士・博士前期】 第●回議題・議事録等 検証会議体:博士前期課程委員会/修士課程委員会 【博士後期・一貫制博士】 第●回議題・議事録等 検証会議体:博士後期課程委員会/博士課程委員会	【修士・博士前期】 委任先議題・議事録等 【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 文学部自己点検・評価委員会
 文学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(9)	3-12U	<p>【学部】 学部の教員組織の編制方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		文学部 教員組織の編制方針改訂版を2015/10/6に大学政策・企画部に提出。	年度初め
	3-12G	<p>【研究科】 研究科の教員組織の編制方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め

教育人間科学部・教育人間科学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務部
 評価基準： 3（教員・教員組織）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時 期
(1)	3-2U	【学部】 組織的な教育を実施する上において必要な役職や諸委員が配置され、その責任の所在が明確にされていますか。	2016	×	【学部】 青山学院大学職制規則 その他 学部独自の内規、とりきめ等		年度初め
	3-2G	【研究科】 組織的な教育を実施する上において必要な役職や諸委員が配置され、その責任の所在が明確にされていますか。	2016	×	【研究科】 青山学院大学職制規則 その他 研究科独自の内規、とりきめ等		年度初め
(2)	3-4U	【学部】 学部の教育研究上の目的を実現するために、学部の教員組織の編制方針が定められ、かつ教職員で共有していますか。	2016	○	【学部】 第6回全学自己点検・評価委員会議事録（2016. 3. 28開催）	第11回教育人間科学部教授会議事録（2015. 10. 14開催）	年度初め
	3-4G	【研究科】 研究科の教育研究上の目的を実現するために、研究科の教員組織の編制方針が定められ、かつ教職員で共有していますか。	2016	○	【研究科】 第6回全学自己点検・評価委員会議事録（2016. 3. 28開催） [学部と同じ]	第11回教育人間科学部教授会議事録（2015. 10. 14開催） [学部と同じ]	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務部
 評価基準： 3（教員・教員組織）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェッ ク 可能時 期
(3)	3-5U	【学部】 法令（大学設置基準等）によって定められた 学科ごとに必要な専任教員数等が把握され、 その数は満たされていますか。	2016	○	【学部】 大学資料集「庶務課6 学部の教員組織」		年度初め
	3-5G	【研究科】 法令（大学院設置基準、専門職大学院設置基 準等）によって定められた専攻ごとに必要な 専任教員数等が把握され、その数は満たされ ていますか。	2016	○	【研究科】 大学資料集「庶務課7 ★大学院研究科の教員組織」 大学資料集「庶務課8 ★専門職大学院の教員組織」		年度初め
(4)	3-6U	【学部】 学部単位で特定の範囲の年齢に著しく偏らな いように配慮していますか。 ※大学設置基準第7条第3項に則る。 ※以下を参考として用いる。 ・61歳以上が35%を超えていないか。 ・30歳以下、31～40歳、41～50歳、51～60 歳、61歳以上でみたとき、各年代の全体に占 める割合が30%を超えていないか。 ※ただし、教員組織の編制方針等で明示され た事項に基づいて超過している場合は、その 旨を備考欄に記載してください。	2016	○	【学部】 大学資料集「庶務課9 専任教員年齢構成」		年度初め
	3-6G	【研究科】 研究科単位で特定の範囲の年齢に著しく偏ら ないよう配慮していますか。 ※大学院設置基準第8条第5項に則る。 ※以下を参考として用いる。 ・61歳以上が35%を超えていないか。 ・30歳以下、31～40歳、41～50歳、51～60 歳、61歳以上でみたとき、各年代の全体に占 める割合が30%を超えていないか。 ※ただし、教員組織の編制方針等で明示され た事項に基づいて超過している場合は、その 旨を備考欄に記載してください。	2016	×	【研究科】 大学資料集「庶務課9 専任教員年齢構成」		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務部
 評価基準： 3（教員・教員組織）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時 期
(5)	3-7U	<p>【学部】 教員組織の編制方針と実際の教員組織の編制実態と整合性がとれていますか。</p> <p>※大学設置基準第7条第3項（大学は、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮するものとする。）を踏まえていること。</p>	2016	×	<p>【学部】 大学ホームページ「専任教員紹介」 http://www.aoyama.ac.jp/research/staff/ 確認日：(2016/5/5)</p>		年度初め
	3-7G	<p>【研究科】 教員組織の編制方針と実際の教員組織の編制実態と整合性がとれていますか。</p> <p>※大学院設置基準第8条第5項（大学院は、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮するものとする。）をふまえていること。</p>	2016	×	<p>【研究科】 大学ホームページ「専任教員紹介」 http://www.aoyama.ac.jp/research/staff/ 確認日：(2016/5/13)</p>		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務部
 評価基準： 3（教員・教員組織）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時 期
(6)	3-8U1	【学部】 教員の募集・採用について、学部独自の基準、手続がある場合、それが明文化され、その適切性・透明性が担保されるよう取り組みましたか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 学部独自の内規、とりきめ 等		年度末
	3-8G1	【研究科】 教員の募集・採用について、研究科独自の基準、手続がある場合、それが明文化され、その適切性・透明性が担保されるよう取り組みましたか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 研究科独自の内規、とりきめ 等		年度末
	3-8U2	【学部】 教員の昇格について、学部独自の基準、手続がある場合、それが明文化され、その適切性・透明性が担保されるよう取り組みましたか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 学部独自の内規、とりきめ 等		年度末
	3-8G2	【研究科】 教員の昇格について、研究科独自の基準、手続がある場合、それが明文化され、その適切性・透明性が担保されるよう取り組みましたか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 研究科独自の内規、とりきめ 等		年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務部
 評価基準： 3（教員・教員組織）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時 期
(7)	3-10U	【学部】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の 教育研究活動の業績を適切に評価する仕組 みが機能しましたか。	2016	○		第19回教育人間科学部教授会（2016年3月10 日）資料	年度末
	3-10G	【研究科】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の 教育研究活動の業績を適切に評価する仕組 みが機能しましたか。	2016	○		第19回教育人間科学部教授会（2016年3月10 日）資料	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務部
 評価基準： 3（教員・教員組織）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時 期
(8)	3-11U1	【学部】 教員組織の適切性（※）を検証するにあたり、会議体（委員会等）・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【学部】 大学学則第14条第4項 検証会議体：専任教授会		年度初め
	3-11G1	【研究科】 教員組織の適切性（※）を検証するにあたり、会議体（委員会等）・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第77条第1項第1号および第2号 検証会議体：博士前期課程委員会/修士課程委員会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第73条第1項第1号および第2号 検証会議体：博士後期課程委員会/博士課程委員会		年度初め
	3-11U2	【学部】 教員組織の適切性（※）は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【学部】 第●回専任教授会議題・議事録等 検証会議体：専任教授会	【学部】 第19回教育人間科学部教授会(2016年3月10日)資料	年度末
	3-11G2	【研究科】 教員組織の適切性（※）は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】 第●回議題・議事録等 検証会議体：博士前期課程委員会/修士課程委員会 【博士後期・一貫制博士】 第●回議題・議事録等 検証会議体：博士後期課程委員会/博士課程委員会	【修士・博士前期】 第19回教育人間科学部教授会(2016年3月10日)資料 【博士後期・一貫制博士】 第19回教育人間科学部教授会(2016年3月10日)資料	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 教育人間科学部自己点検・評価委員会
 教育人間科学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務部
 評価基準： 3（教員・教員組織）

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)が できて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時 期
(9)	3-12U	<p>【学部】 学部の教員組織の編制方針は適切ですか (※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー（学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等）の要請にあっているか。 ・自己点検・評価（チェックリスト）を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		第11回教育人間科学部教授会議事録 (2015. 10. 14開催)	年度初め
	3-12G	<p>【研究科】 研究科の教員組織の編制方針は適切ですか (※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー（学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等）の要請にあっているか。 ・自己点検・評価（チェックリスト）を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		第11回教育人間科学部教授会議事録 (2015. 10. 14開催) [学部と同じ]	年度初め

経済学部・経済学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	3-2U	【学部】 組織的な教育を実施する上において必要な役職 や諸委員が配置され、その責任の所在が明確に されていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学職制規則 その他 学部独自の内規、とりきめ等2016/6/4確認	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	3-2G	【研究科】 組織的な教育を実施する上において必要な役職 や諸委員が配置され、その責任の所在が明確に されていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学職制規則 その他 研究科独自の内規、とりきめ等2016/6/4確認	6/8学部自己点検委員会	年度初め
(2)	3-4U	【学部】 学部の教育研究上の目的を実現するために、学 部の教員組織の編制方針が定められ、かつ教 職員で共有していますか。	2016	○	従来から運用により実質的に共有されている。	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	3-4G	【研究科】 研究科の教育研究上の目的を実現するために、 研究科の教員組織の編制方針が定められ、か つ教職員で共有していますか。	2016	○	従来から運用により実質的に共有されている。	6/8学部自己点検委員会	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	3-5U	【学部】 法令(大学設置基準等)によって定められた学科ごとに必要な専任教員数等が把握され、その数は満たされていますか。	2016	○	【学部】 大学資料集「庶務課6 学部の教員組織」2016/6/4確認	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	3-5G	【研究科】 法令(大学院設置基準、専門職大学院設置基準等)によって定められた専攻ごとに必要な専任教員数等が把握され、その数は満たされていますか。	2016	○	【研究科】 大学資料集「庶務課7 ★大学院研究科の教員組織」 大学資料集「庶務課8 ★専門職大学院の教員組織」 2016/6/4確認	6/8学部自己点検委員会	年度初め
(4)	3-6U	【学部】 学部単位で特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。 ※大学設置基準第7条第3項に則る。 ※以下を参考として用いる。 ・61歳以上が35%を超えていないか。 ・30歳以下、31～40歳、41～50歳、51～60歳、61歳以上でみたとき、各年代の全体に占める割合が30%を超えていないか。 ※ただし、教員組織の編制方針等で明示された事項に基づいて超過している場合は、その旨を備考欄に記載してください。	2016	○	【学部】 大学資料集「庶務課9 専任教員年齢構成」2016/6/4確認	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	3-6G	【研究科】 研究科単位で特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。 ※大学院設置基準第8条第5項に則る。 ※以下を参考として用いる。 ・61歳以上が35%を超えていないか。 ・30歳以下、31～40歳、41～50歳、51～60歳、61歳以上でみたとき、各年代の全体に占める割合が30%を超えていないか。 ※ただし、教員組織の編制方針等で明示された事項に基づいて超過している場合は、その旨を備考欄に記載してください。	2016	○	【研究科】 大学資料集「庶務課9 専任教員年齢構成」2016/6/4確認	6/8学部自己点検委員会非	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	3-7U	【学部】 教員組織の編制方針と実際の教員組織の編制 実態と整合性がとれていますか。 ※大学設置基準第7条第3項(大学は、教育研 究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図 るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著し く偏ることのないよう配慮するものとする。)を踏 まえていること。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「専任教員紹介」 http://www.aoyama.ac.jp/research/staff/ 確認日:(2016/6/4)	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	3-7G	【研究科】 教員組織の編制方針と実際の教員組織の編制 実態と整合性がとれていますか。 ※大学院設置基準第8条第5項(大学院は、教育 研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を 図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に 著しく偏ることのないよう配慮するものとする。 をふまえていること。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「専任教員紹介」 http://www.aoyama.ac.jp/research/staff/ 確認日:(2016/6/4)	6/8学部自己点検委員会	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	3-8U1	【学部】 教員の募集・採用について、学部独自の基準、 手続がある場合、それが明文化され、その適切 性・透明性が担保されるよう取り組みました か。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 人事委員会を立ち上げ、必要な公募要項を定め、適切に 運用している。	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議 事録	年度末
	3-8G1	【研究科】 教員の募集・採用について、研究科独自の基 準、手続がある場合、それが明文化され、その 適切性・透明性が担保されるよう取り組みまし たか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 人事委員会を立ち上げ、必要な公募要項を定め、適切に 運用している。	1第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議 事録	年度末
	3-8U2	【学部】 教員の昇格について、学部独自の基準、手続が ある場合、それが明文化され、その適切性・透明 性が担保されるよう取り組みましたか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 学部独自の内規、とりきめ 等 2017/5/10確認	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議 事録	年度末
	3-8G2	【研究科】 教員の昇格について、研究科独自の基準、手続 がある場合、それが明文化され、その適切性・透 明性が担保されるよう取り組みましたか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 研究科独自の内規、とりきめ 等 2017/5/10確認	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議 事録	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(7)	3-10U	【学部】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の 教育研究活動の業績を適切に評価する仕組み が機能しましたか。	2016	○	研究・教育活動報告書 2017/5/10確認	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議 事録	年度末
	3-10G	【研究科】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の 教育研究活動の業績を適切に評価する仕組み が機能しましたか。	2016	○	研究・教育活動報告書 2017/5/10確認	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議 事録	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(8)	3-11U1	【学部】 教員組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	従来から運用により柔軟に対応しており、それが規範として確立している。	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	3-11G1	【研究科】 教員組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	従来から運用により柔軟に対応しており、それが規範として確立している。	6/8学部自己点検委員会	年度初め
	3-11U2	【学部】 教員組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	従来から運用により柔軟に対応しており、それが規範として確立している。	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末
	3-11G2	【研究科】 教員組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	従来から運用により柔軟に対応しており、それが規範として確立している。	第1回学部自己点検・評価委員会(5/10開催)議事録	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経済学部自己点検・評価委員会
 経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(9)	3-12U	<p>【学部】 学部の教員組織の編制方針は適切ですか (※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		6/8学部自己点検委員会	年度初め
	3-12G	<p>【研究科】 研究科の教員組織の編制方針は適切ですか (※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		6/8学部自己点検委員会	年度初め

法学部・法学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	3-2U	【学部】 組織的な教育を実施する上において必要な役職 や諸委員が配置され、その責任の所在が明確に されていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学職制規則 その他 学部独自の内規、とりきめ等		年度初め
	3-2G	【研究科】 組織的な教育を実施する上において必要な役職 や諸委員が配置され、その責任の所在が明確に されていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学職制規則 その他 研究科独自の内規、とりきめ等		年度初め
(2)	3-4U	【学部】 学部の教育研究上の目的を実現するために、学 部の教員組織の編制方針が定められ、かつ教 職員で共有していますか。	2016	×	【学部】 方針が記載されているとともに、教職員での共有状況が 分かる媒体等		年度初め
	3-4G	【研究科】 研究科の教育研究上の目的を実現するために、 研究科の教員組織の編制方針が定められ、か つ教職員で共有していますか。	2016	×	【研究科】 方針が記載されているとともに、教職員での共有状況が 分かる媒体等		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	3-5U	【学部】 法令(大学設置基準等)によって定められた学科ごとに必要な専任教員数等が把握され、その数は満たされていますか。	2016	○	【学部】 大学資料集「庶務課6 学部の教員組織」		年度初め
	3-5G	【研究科】 法令(大学院設置基準、専門職大学院設置基準等)によって定められた専攻ごとに必要な専任教員数等が把握され、その数は満たされていますか。	2016	○	【研究科】 大学資料集「庶務課7 ★大学院研究科の教員組織」 大学資料集「庶務課8 ★専門職大学院の教員組織」		年度初め
(4)	3-6U	【学部】 学部単位で特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。 ※大学設置基準第7条第3項に則る。 ※以下を参考として用いる。 ・61歳以上が35%を超えていないか。 ・30歳以下、31～40歳、41～50歳、51～60歳、61歳以上でみたとき、各年代の全体に占める割合が30%を超えていないか。 ※ただし、教員組織の編制方針等で明示された事項に基づいて超過している場合は、その旨を備考欄に記載してください。	2016	○	【学部】 大学資料集「庶務課9 専任教員年齢構成」		年度初め
	3-6G	【研究科】 研究科単位で特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。 ※大学院設置基準第8条第5項に則る。 ※以下を参考として用いる。 ・61歳以上が35%を超えていないか。 ・30歳以下、31～40歳、41～50歳、51～60歳、61歳以上でみたとき、各年代の全体に占める割合が30%を超えていないか。 ※ただし、教員組織の編制方針等で明示された事項に基づいて超過している場合は、その旨を備考欄に記載してください。	2016	○	【研究科】 大学資料集「庶務課9 専任教員年齢構成」		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	3-7U	<p>【学部】 教員組織の編制方針と実際の教員組織の編制 実態と整合性がとれていますか。</p> <p>※大学設置基準第7条第3項(大学は、教育研 究水準の維持向上及び教育研究の活性化を 図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著 しく偏ることのないよう配慮するものとする。)を踏 まえていること。</p>	2016	×	<p>【学部】 大学ホームページ「専任教員紹介」 http://www.aoyama.ac.jp/research/staff/ 確認日:(2016.04.01.)</p>		年度初め
	3-7G	<p>【研究科】 教員組織の編制方針と実際の教員組織の編制 実態と整合性がとれていますか。</p> <p>※大学院設置基準第8条第5項(大学院は、教育 研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を 図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に 著しく偏ることのないよう配慮するものとする。)を ふまえていること。</p>	2016	×	<p>【研究科】 大学ホームページ「専任教員紹介」 http://www.aoyama.ac.jp/research/staff/ 確認日:(2016.04.01.)</p>		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	3-8U1	【学部】 教員の募集・採用について、学部独自の基準、 手続がある場合、それが明文化され、その適切 性・透明性が担保されるよう取り組みました か。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 学部独自の内規、とりきめ 等		年度末
	3-8G1	【研究科】 教員の募集・採用について、研究科独自の基 準、手続がある場合、それが明文化され、その 適切性・透明性が担保されるよう取り組みまし たか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 研究科独自の内規、とりきめ 等		年度末
	3-8U2	【学部】 教員の昇格について、学部独自の基準、手続が ある場合、それが明文化され、その適切性・透明 性が担保されるよう取り組みましたか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 学部独自の内規、とりきめ 等		年度末
	3-8G2	【研究科】 教員の昇格について、研究科独自の基準、手続 がある場合、それが明文化され、その適切性・透 明性が担保されるよう取り組みましたか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 研究科独自の内規、とりきめ 等		年度末
(7)	3-10U	【学部】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の 教育研究活動の業績を適切に評価する仕組み が機能しましたか。	2016	○	【学部】 学部独自の内規、とりきめ 等		年度末
	3-10G	【研究科】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の 教育研究活動の業績を適切に評価する仕組み が機能しましたか。	2016	○	【研究科】 研究科独自の内規、とりきめ 等		年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(8)	3-11U1	【学部】 教員組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【学部】 大学学則第14条第4項 検証会議体:専任教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	3-11G1	【研究科】 教員組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第77条第1項第1号および第2号 検証会議体:博士前期課程委員会/修士課程委員会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第73条第1項第1号および第2号 検証会議体:博士後期課程委員会/博士課程委員会	【修士・博士前期】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :() 【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	3-11U2	【学部】 教員組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	×	【学部】 第●回専任教授会議体・議事録等 検証会議体:専任教授会	【学部】 委任先議題・議事録等	年度末
	3-11G2	【研究科】 教員組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	×	【修士・博士前期】 第●回議題・議事録等 検証会議体:博士前期課程委員会/修士課程委員会 【博士後期・一貫制博士】 第●回議題・議事録等 検証会議体:博士後期課程委員会/博士課程委員会	【修士・博士前期】 委任先議題・議事録等 【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法学部自己点検・評価委員会
 法学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(9)	3-12U	<p>【学部】 学部の教員組織の編制方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め
	3-12G	<p>【研究科】 研究科の教員組織の編制方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め

経営学部・経営学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
 経営学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	3-2U	【学部】 組織的な教育を実施する上において必要な役職 や諸委員が配置され、その責任の所在が明確に されていますか。	2016	×	【学部】 青山学院大学職制規則 その他 学部独自の内規、とりきめ等		年度初め
	3-2G	【研究科】 組織的な教育を実施する上において必要な役職 や諸委員が配置され、その責任の所在が明確に されていますか。	2016	×	【研究科】 青山学院大学職制規則 その他 研究科独自の内規、とりきめ等		年度初め
(2)	3-4U	【学部】 学部の教育研究上の目的を実現するために、学 部の教員組織の編制方針が定められ、かつ教 職員で共有していますか。	2016	×	【学部】 方針が記載されているとともに、教職員での共有状況が 分かる媒体等		年度初め
	3-4G	【研究科】 研究科の教育研究上の目的を実現するために、 研究科の教員組織の編制方針が定められ、か つ教職員で共有していますか。	2016	×	【研究科】 方針が記載されているとともに、教職員での共有状況が 分かる媒体等		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
 経営学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	3-5U	【学部】 法令(大学設置基準等)によって定められた学科ごとに必要な専任教員数等が把握され、その数は満たされていますか。	2016	○	【学部】 大学資料集「庶務課6 学部の教員組織」		年度初め
	3-5G	【研究科】 法令(大学院設置基準、専門職大学院設置基準等)によって定められた専攻ごとに必要な専任教員数等が把握され、その数は満たされていますか。	2016	○	【研究科】 大学資料集「庶務課7 ★大学院研究科の教員組織」 大学資料集「庶務課8 ★専門職大学院の教員組織」		年度初め
(4)	3-6U	【学部】 学部単位で特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。 ※大学設置基準第7条第3項に則る。 ※以下を参考として用いる。 ・61歳以上が35%を超えていないか。 ・30歳以下、31～40歳、41～50歳、51～60歳、61歳以上でみたとき、各年代の全体に占める割合が30%を超えていないか。 ※ただし、教員組織の編制方針等で明示された事項に基づいて超過している場合は、その旨を備考欄に記載してください。	2016	×	【学部】 大学資料集「庶務課9 専任教員年齢構成」		年度初め
	3-6G	【研究科】 研究科単位で特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。 ※大学院設置基準第8条第5項に則る。 ※以下を参考として用いる。 ・61歳以上が35%を超えていないか。 ・30歳以下、31～40歳、41～50歳、51～60歳、61歳以上でみたとき、各年代の全体に占める割合が30%を超えていないか。 ※ただし、教員組織の編制方針等で明示された事項に基づいて超過している場合は、その旨を備考欄に記載してください。	2016	×	【研究科】 大学資料集「庶務課9 専任教員年齢構成」		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
 経営学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	3-7U	【学部】 教員組織の編制方針と実際の教員組織の編制 実態と整合性がとれていますか。 ※大学設置基準第7条第3項(大学は、教育研 究水準の維持向上及び教育研究の活性化を 図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著 しく偏ることのないよう配慮するものとする。)を踏 まえていること。	2016	×	【学部】 大学ホームページ「専任教員紹介」 http://www.aoyama.ac.jp/research/staff/ 確認日:(2016年6月7日)		年度初め
	3-7G	【研究科】 教員組織の編制方針と実際の教員組織の編制 実態と整合性がとれていますか。 ※大学院設置基準第8条第5項(大学院は、教育 研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を 図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に 著しく偏ることのないよう配慮するものとする。)を ふまえていること。	2016	×	【研究科】 大学ホームページ「専任教員紹介」 http://www.aoyama.ac.jp/research/staff/ 確認日:(2016年6月7日)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
 経営学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	3-8U1	【学部】 教員の募集・採用について、学部独自の基準、 手続がある場合、それが明文化され、その適切 性・透明性が担保されるよう取り組みました か。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 学部独自の内規、とりきめ 等		年度末
	3-8G1	【研究科】 教員の募集・採用について、研究科独自の基 準、手続がある場合、それが明文化され、その 適切性・透明性が担保されるよう取り組みまし たか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 研究科独自の内規、とりきめ 等		年度末
	3-8U2	【学部】 教員の昇格について、学部独自の基準、手続が ある場合、それが明文化され、その適切性・透明 性が担保されるよう取り組みましたか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 学部独自の内規、とりきめ 等		年度末
	3-8G2	【研究科】 教員の昇格について、研究科独自の基準、手続 がある場合、それが明文化され、その適切性・透 明性が担保されるよう取り組みましたか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 研究科独自の内規、とりきめ 等		年度末
(7)	3-10U	【学部】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の 教育研究活動の業績を適切に評価する仕組み が機能しましたか。	2016	×			年度末
	3-10G	【研究科】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の 教育研究活動の業績を適切に評価する仕組み が機能しましたか。	2016	×			年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
 経営学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(8)	3-11U1	【学部】 教員組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【学部】 大学学則第14条第4項 検証会議体:専任教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	3-11G1	【研究科】 教員組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第77条第1項第1号および第2号 検証会議体:博士前期課程委員会/修士課程委員会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第73条第1項第1号および第2号 検証会議体:博士後期課程委員会/博士課程委員会	【修士・博士前期】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :() 【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	3-11U2	【学部】 教員組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【学部】 第1回専任教授会議題・議事録等 検証会議体:専任教授会	【学部】 委任先議題・議事録等	年度末
	3-11G2	【研究科】 教員組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】 検証会議体:研究科教授会 【博士後期・一貫制博士】 検証会議体:研究科教授会および博士後期課程委員会	【修士・博士前期】 委任先議題・議事録等 第14回研究科教授会議事録等 【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等 第14回研究科教授会議事録等	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 経営学部自己点検・評価委員会
 経営学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(9)	3-12U	<p>【学部】 学部の教員組織の編制方針は適切ですか (※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社 会、文部科学省、大学基準協会等)の要請に あっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすい か。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自 己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め
	3-12G	<p>【研究科】 研究科の教員組織の編制方針は適切ですか (※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社 会、文部科学省、大学基準協会等)の要請に あっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすい か。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自 己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め

国際政治経済学部・国際政治経済学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	3-2U	【学部】 組織的な教育を実施する上において必要な役職 や諸委員が配置され、その責任の所在が明確に されていますか。	2016	○	【学部】 『青山学院大学職制規則』 https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/soumu/JoureiV5HTMLContents/act/frame/frame110000433.htm	2015年度第18回国際政治経済学部教授会 (2016/3/10)協議事項5.(学13-1)『2016年度国際 政治経済学部・研究科諸委員(案)』	年度初め
	3-2G	【研究科】 組織的な教育を実施する上において必要な役職 や諸委員が配置され、その責任の所在が明確に されていますか。	2016	○	【研究科】 『青山学院大学職制規則』 https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/soumu/JoureiV5HTMLContents/act/frame/frame110000433.htm	2015年度第18回国際政治経済学部教授会 (2016/3/10)協議事項5.(学13-1)『2016年度国際 政治経済学部・研究科諸委員(案)』	年度初め
(2)	3-4U	【学部】 学部の教育研究上の目的を実現するために、学 部の教員組織の編制方針が定められ、かつ教 職員で共有していますか。	2016	○		2016年6月10日付学部長発新任教員宛文書「国 際政治経済学部・研究科『教員組織の編成方針』 の共有について」	年度初め
	3-4G	【研究科】 研究科の教育研究上の目的を実現するために、 研究科の教員組織の編制方針が定められ、か つ教職員で共有していますか。	2016	○		2016年6月10日付学部長発新任教員宛文書「国 際政治経済学部・研究科『教員組織の編成方針』 の共有について」	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	3-5U	【学部】 法令(大学設置基準等)によって定められた学科ごとに必要な専任教員数等が把握され、その数は満たされていますか。	2016	○	【学部】 大学資料集「庶務課6 学部の教員組織」 https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken-hyouka/shiryoushu/shiryo2016/1.shomuka/shomuka6.pdf		年度初め
	3-5G	【研究科】 法令(大学院設置基準、専門職大学院設置基準等)によって定められた専攻ごとに必要な専任教員数等が把握され、その数は満たされていますか。	2016	○	【研究科】 大学資料集「庶務課7 : 大学院研究科(専門職大学院を除く)の教員組織 (2016年5月1日現在)」 https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken-hyouka/shiryoushu/shiryo2016/1.shomuka/shomuka7.pdf		年度初め
(4)	3-6U	【学部】 学部単位で特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。 ※大学設置基準第7条第3項に則る。 ※以下を参考として用いる。 ・61歳以上が35%を超えていないか。 ・30歳以下、31～40歳、41～50歳、51～60歳、61歳以上でみたとき、各年代の全体に占める割合が30%を超えていないか。 ※ただし、教員組織の編制方針等で明示された事項に基づいて超過している場合は、その旨を備考欄に記載してください。	2016	○	【学部】 大学資料集「庶務課9 専任教員年齢構成」 https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken-hyouka/shiryoushu/shiryo2016/1.shomuka/shomuka9.pdf		年度初め
	3-6G	【研究科】 研究科単位で特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。 ※大学院設置基準第8条第5項に則る。 ※以下を参考として用いる。 ・61歳以上が35%を超えていないか。 ・30歳以下、31～40歳、41～50歳、51～60歳、61歳以上でみたとき、各年代の全体に占める割合が30%を超えていないか。 ※ただし、教員組織の編制方針等で明示された事項に基づいて超過している場合は、その旨を備考欄に記載してください。	2016	○	【研究科】 大学資料集「庶務課9 専任教員年齢構成」 https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/d-gakuchou/jikotenken-hyouka/shiryoushu/shiryo2016/1.shomuka/shomuka9.pdf		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	3-7U	【学部】 教員組織の編制方針と実際の教員組織の編制 実態と整合性がとれていますか。 ※大学設置基準第7条第3項(大学は、教育研 究水準の維持向上及び教育研究の活性化を 図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著 しく偏ることのないよう配慮するものとする。)を踏 まえていること。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「専任教員紹介」 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/sipec/staff.html 確認日:(2016/5/15)		年度初め
	3-7G	【研究科】 教員組織の編制方針と実際の教員組織の編制 実態と整合性がとれていますか。 ※大学院設置基準第8条第5項(大学院は、教育 研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を 図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に 著しく偏ることのないよう配慮するものとする。)を ふまえていること。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「専任教員紹介」 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_sipec/staff.html 確認日:(2016/5/15)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	3-8U1	【学部】 教員の募集・採用について、学部独自の基準、 手続がある場合、それが明文化され、その適切 性・透明性が担保されるよう取り組みました か。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○		2015年度第8回国際政治経済学部専任教授会 (2016/10/12)協議事項1. 2016年度第10回国際政治経済学部専任教授会 (2016/11/9)協議事項1.2.3.	年度末
	3-8G1	【研究科】 教員の募集・採用について、研究科独自の基 準、手続がある場合、それが明文化され、その 適切性・透明性が担保されるよう取り組みまし たか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○			年度末
	3-8U2	【学部】 教員の昇格について、学部独自の基準、手続が ある場合、それが明文化され、その適切性・透明 性が担保されるよう取り組みましたか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 国際政治経済学部専任教員昇任人事基準	2016年度第15回国際政治経済学部専任教授会 (2017/2/23)協議事項1.	年度末
	3-8G2	【研究科】 教員の昇格について、研究科独自の基準、手続 がある場合、それが明文化され、その適切性・透 明性が担保されるよう取り組みましたか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 国際政治経済学部専任教員昇任人事基準	2016年度第15回国際政治経済学部専任教授会 (2017/2/23)協議事項1.	年度末
(7)	3-10U	【学部】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の 教育研究活動の業績を適切に評価する仕組み が機能しましたか。	2016	○		国際政治経済学部専任教員昇任人事基準1.(1)① 青山学院学術賞候補者の推薦	年度末
	3-10G	【研究科】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の 教育研究活動の業績を適切に評価する仕組み が機能しましたか。	2016	○		国際政治経済学部専任教員昇任人事基準1.(1)① 青山学院学術賞候補者の推薦	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(8)	3-11U1	【学部】 教員組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【学部】 大学学則第14条第4項 検証会議体:専任教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等:2016年5月25日付 2016年度国際政治経済学部第3回教授会協議事項2. 左記検証会議体からの委任先:主任会 手続:2016年6月8日付2016年度第4回国際政治経済学部・研究科主任会議題2.「青山学院大学国際政治経済学部・研究科主任会における自己点検・評価の検証事項に関する手続(案)」	年度初め
	3-11G1	【研究科】 教員組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第77条第1項第1号および第2号 検証会議体:博士前期課程委員会/修士課程委員会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第73条第1項第1号および第2号 検証会議体:博士後期課程委員会/博士課程委員会	【修士・博士前期】【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等:2016年5月25日付 2016年度国際政治経済学研究科第3回教授会協議事項5. 左記検証会議体からの委任先:主任会 手続:2016年6月8日付2016年度第4回国際政治経済学部・研究科主任会議題2.「青山学院大学国際政治経済学部・研究科主任会における自己点検・評価の検証事項に関する手続(案)」	年度初め
	3-11U2	【学部】 教員組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○		【学部】 2016年度第17回国際政治経済学部・研究科主任会記録議題2.「自己点検・評価の証事項に関する回答(案)」別添参考資料2	年度末
	3-11G2	【研究科】 教員組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	×			年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際政治経済学部自己点検・評価委員会
 国際政治経済学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(9)	3-12U	<p>【学部】 学部の教員組織の編制方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め
	3-12G	<p>【研究科】 研究科の教員組織の編制方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○			年度初め

総合文化政策学部・総合文化政策学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	3-2U	【学部】 組織的な教育を実施する上において必要な役職 や諸委員が配置され、その責任の所在が明確に されていますか。	2016	×	【学部】 青山学院大学職制規則 その他 学部独自の内規、とりきめ等	2016年度総合文化政策学部・研究科委員等一覧 はあるが、諸委員についての内規等はまだ無い。	年度初め
	3-2G	【研究科】 組織的な教育を実施する上において必要な役職 や諸委員が配置され、その責任の所在が明確に されていますか。	2016	×	【研究科】 青山学院大学職制規則 その他 研究科独自の内規、とりきめ等	2016年度総合文化政策学部・研究科委員等一覧 はあるが、諸委員についての内規等はまだ無い。	年度初め
(2)	3-4U	【学部】 学部の教育研究上の目的を実現するために、学 部の教員組織の編制方針が定められ、かつ教 職員で共有していますか。	2016	○	【学部】 方針が記載されているとともに、教職員での共有状況が 分かる媒体等	総合文化政策学部教員組織の編成方針に定めら れている。	年度初め
	3-4G	【研究科】 研究科の教育研究上の目的を実現するために、 研究科の教員組織の編制方針が定められ、か つ教職員で共有していますか。	2016	○	【研究科】 方針が記載されているとともに、教職員での共有状況が 分かる媒体等	総合文化政策学研究科教員組織の編成方針に 定められている。	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	3-5U	【学部】 法令(大学設置基準等)によって定められた学科ごとに必要な専任教員数等が把握され、その数は満たされていますか。	2016	○	【学部】 大学資料集「庶務課6 学部の教員組織」		年度初め
	3-5G	【研究科】 法令(大学院設置基準、専門職大学院設置基準等)によって定められた専攻ごとに必要な専任教員数等が把握され、その数は満たされていますか。	2016	○	【研究科】 大学資料集「庶務課7 ★大学院研究科の教員組織」 大学資料集「庶務課8 ★専門職大学院の教員組織」		年度初め
(4)	3-6U	【学部】 学部単位で特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。 ※大学設置基準第7条第3項に則る。 ※以下を参考として用いる。 ・61歳以上が35%を超えていないか。 ・30歳以下、31～40歳、41～50歳、51～60歳、61歳以上でみたとき、各年代の全体に占める割合が30%を超えていないか。 ※ただし、教員組織の編制方針等で明示された事項に基づいて超過している場合は、その旨を備考欄に記載してください。	2016	×	【学部】 大学資料集「庶務課9 専任教員年齢構成」	教授で51歳～60歳が、47.1%となっている。また准教授の欄で、41～50歳が、80%となっているので、×としたが、この割合には、現在の統計の取り方では、均等教員がいれば、必ず30%を超えるので、無意味な設問となっている。	年度初め
	3-6G	【研究科】 研究科単位で特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。 ※大学院設置基準第8条第5項に則る。 ※以下を参考として用いる。 ・61歳以上が35%を超えていないか。 ・30歳以下、31～40歳、41～50歳、51～60歳、61歳以上でみたとき、各年代の全体に占める割合が30%を超えていないか。 ※ただし、教員組織の編制方針等で明示された事項に基づいて超過している場合は、その旨を備考欄に記載してください。	2016	×	【研究科】 大学資料集「庶務課9 専任教員年齢構成」	教授で51歳～60歳が、47.1%となっている。また准教授の欄で、41～50歳が、80%となっているので、×としたが、この割合には、現在の統計の取り方では、均等教員がいれば、必ず30%を超えるので、無意味な設問となっている。	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	3-7U	【学部】 教員組織の編制方針と実際の教員組織の編制 実態と整合性がとれていますか。 ※大学設置基準第7条第3項(大学は、教育研 究水準の維持向上及び教育研究の活性化を 図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著 しく偏ることのないよう配慮するものとする。)を踏 まえていること。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「専任教員紹介」 http://www.aoyama.ac.jp/research/staff/ 確認日:(2016年4月19日) 新任教員2名の教員業績については、作成中。	総合文化政策学部教員組織の編成方針に定めら れている。	年度初め
	3-7G	【研究科】 教員組織の編制方針と実際の教員組織の編制 実態と整合性がとれていますか。 ※大学院設置基準第8条第5項(大学院は、教育 研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を 図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に 著しく偏ることのないよう配慮するものとする。)を ふまえていること。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「専任教員紹介」 http://www.aoyama.ac.jp/research/staff/ 確認日:(2016年5月31日)	総合文化政策学研究科教員組織の編成方針に 定められている。	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	3-8U1	【学部】 教員の募集・採用について、学部独自の基準、 手続がある場合、それが明文化され、その適切 性・透明性が担保されるよう取り組みました か。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 学部独自の内規、とりきめ 等	「総合文化政策学部専任教員任用手続きルール」 に定められている。	年度末
	3-8G1	【研究科】 教員の募集・採用について、研究科独自の基 準、手続がある場合、それが明文化され、その 適切性・透明性が担保されるよう取り組みまし たか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 研究科独自の内規、とりきめ 等	「総合文化政策学部専任教員任用手続きルール」 に定められている。	年度末
	3-8U2	【学部】 教員の昇格について、学部独自の基準、手続が ある場合、それが明文化され、その適切性・透明 性が担保されるよう取り組みましたか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	×	【学部】 学部独自の内規、とりきめ 等		年度末
	3-8G2	【研究科】 教員の昇格について、研究科独自の基準、手続 がある場合、それが明文化され、その適切性・透 明性が担保されるよう取り組みましたか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	×	【研究科】 研究科独自の内規、とりきめ 等		年度末
(7)	3-10U	【学部】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の 教育研究活動の業績を適切に評価する仕組み が機能しましたか。	2016	×			年度末
	3-10G	【研究科】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の 教育研究活動の業績を適切に評価する仕組み が機能しましたか。	2016	×			年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(8)	3-11U1	【学部】 教員組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【学部】 大学学則第14条第4項 検証会議体: 専任教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 : 2016年5月25日付承認 左記検証会議体からの委任先 : (学部・研究科合同主任会)	年度初め
	3-11G1	【研究科】 教員組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第77条第1項第1号および第2号 検証会議体: 博士前期課程委員会/修士課程委員会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第73条第1項第1号および第2号 検証会議体: 博士後期課程委員会/博士課程委員会	【修士・博士前期】 委任に関する申し合わせ等 : ●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 : () 【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 : ●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 : ()	年度初め
	3-11U2	【学部】 教員組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【学部】 第●回専任教授会議題・議事録等 検証会議体: 専任教授会 (第17回学部教授会で実施したため、検証会議体は、学部教授会)	【学部】 委任先議題・議事録等	年度末
	3-11G2	【研究科】 教員組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】 第●回議題・議事録等 検証会議体: 博士前期課程委員会/修士課程委員会 (第17回学部教授会でまとめて実施したため、検証会議体は、学部教授会) 【博士後期・一貫制博士】 第●回議題・議事録等 検証会議体: 博士後期課程委員会/博士課程委員会 (第17回学部教授会でまとめて実施したため、検証会議体は、学部教授会)	【修士・博士前期】 委任先議題・議事録等 【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 総合文化政策学部自己点検・評価委員会
 総合文化政策学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(9)	3-12U	<p>【学部】 学部の教員組織の編制方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		「教育研究上の目的」、「アドミッションポリシー」、「教員組織の編成方針」と整合性がとれている。	年度初め
	3-12G	<p>【研究科】 研究科の教員組織の編制方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		「教育研究上の目的」、「アドミッションポリシー」、「教員組織の編成方針」と整合性がとれている。	年度初め

理工学部・理工学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	3-2U	【学部】 組織的な教育を実施する上において必要な役職 や諸委員が配置され、その責任の所在が明確に されていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学職制規則 その他 学部独自の内規、とりきめ等	2016年3月10日 第17回理工学部教授会	年度初め
	3-2G	【研究科】 組織的な教育を実施する上において必要な役職 や諸委員が配置され、その責任の所在が明確に されていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学職制規則 その他 研究科独自の内規、とりきめ等	2016年3月10日 第17回理工学部教授会にて大 学院関連委員も承認	年度初め
(2)	3-4U	【学部】 学部の教育研究上の目的を実現するために、学 部の教員組織の編制方針が定められ、かつ教 職員で共有していますか。	2016	○	【学部】 方針が記載されているとともに、教職員での共有状況が 分かる媒体等	2015年7月21日 第7回学科主任会 2015年7月22日 第1回臨時専任教授会 2015年7月22日 第7回教授会(教授会及び専任 教授会規則一部改正について)	年度初め
	3-4G	【研究科】 研究科の教育研究上の目的を実現するために、 研究科の教員組織の編制方針が定められ、か つ教職員で共有していますか。	2016	○	【研究科】 方針が記載されているとともに、教職員での共有状況が 分かる媒体等	理工学研究科教授会議事録なし 学部教授会にて大学院関連も承認 2015年7月22日	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	3-5U	【学部】 法令(大学設置基準等)によって定められた学科ごとに必要な専任教員数等が把握され、その数は満たされていますか。	2016	○	【学部】 大学資料集「庶務課6 学部の教員組織」	大学資料集確認 2016年5月23日 2015年11月11日 第5回専任教授会 2015年11月25日 第6回専任教授会	年度初め
	3-5G	【研究科】 法令(大学院設置基準、専門職大学院設置基準等)によって定められた専攻ごとに必要な専任教員数等が把握され、その数は満たされていますか。	2016	○	【研究科】 大学資料集「庶務課7 ★大学院研究科の教員組織」 大学資料集「庶務課8 ★専門職大学院の教員組織」	大学資料集確認 2016年5月23日 2015年11月11日 第5回専任教授会 2015年11月25日 第6回専任教授会	年度初め
(4)	3-6U	【学部】 学部単位で特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。 ※大学設置基準第7条第3項に則る。 ※以下を参考として用いる。 ・61歳以上が35%を超えていないか。 ・30歳以下、31～40歳、41～50歳、51～60歳、61歳以上でみたとき、各年代の全体に占める割合が30%を超えていないか。 ※ただし、教員組織の編制方針等で明示された事項に基づいて超過している場合は、その旨を備考欄に記載してください。	2016	×	【学部】 大学資料集「庶務課9 専任教員年齢構成」	【理工】 専任教員紹介 http://www.aoyama.ac.jp/research/staff/ 【学務課で情報管理】 理工学部教員採用状況(2007-2015) 理工学部教員学科別年齢構成	年度初め
	3-6G	【研究科】 研究科単位で特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。 ※大学院設置基準第8条第5項に則る。 ※以下を参考として用いる。 ・61歳以上が35%を超えていないか。 ・30歳以下、31～40歳、41～50歳、51～60歳、61歳以上でみたとき、各年代の全体に占める割合が30%を超えていないか。 ※ただし、教員組織の編制方針等で明示された事項に基づいて超過している場合は、その旨を備考欄に記載してください。	2016	×	【研究科】 大学資料集「庶務課9 専任教員年齢構成」	【理工】 専任教員紹介 http://www.aoyama.ac.jp/research/staff/ 【学務課で情報管理】 理工学研究科教員コース別年齢構成	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会
担当部署/担当者: 学務課(相)
評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	3-7U	【学部】 教員組織の編制方針と実際の教員組織の編制 実態と整合性がとれていますか。 ※大学設置基準第7条第3項(大学は、教育研 究水準の維持向上及び教育研究の活性化を 図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著 しく偏ることのないよう配慮するものとする。)を踏 まえていること。	2016	○	【学部】 大学ホームページ「専任教員紹介」 http://www.aoyama.ac.jp/research/staff/ 確認日:(20160414新任退任未修正)	2016年1月19日 第16回学科主任会	年度初め
	3-7G	【研究科】 教員組織の編制方針と実際の教員組織の編制 実態と整合性がとれていますか。 ※大学院設置基準第8条第5項(大学院は、教育 研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を 図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に 著しく偏ることのないよう配慮するものとする。)を ふまえていること。	2016	×	【研究科】 大学ホームページ「専任教員紹介」 http://www.aoyama.ac.jp/research/staff/ 確認日:(20160414新任退任未修正)	なし	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	3-8U1	【学部】 教員の募集・採用について、学部独自の基準、 手続がある場合、それが明文化され、その適切 性・透明性が担保されるよう取り組みました か。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 学部独自の内規、とりきめ 等	第4回専任教授会 2016年11月9日 2016年3月9日 2015年度第17回主任会 2016年6月21日 2016年度第5回主任会	年度末
	3-8G1	【研究科】 教員の募集・採用について、研究科独自の基 準、手続がある場合、それが明文化され、その 適切性・透明性が担保されるよう取り組みまし たか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 研究科独自の内規、とりきめ 等	第4回専任教授会 2016年11月9日	年度末
	3-8U2	【学部】 教員の昇格について、学部独自の基準、手続が ある場合、それが明文化され、その適切性・透明 性が担保されるよう取り組みましたか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 学部独自の内規、とりきめ 等	理工学部教員昇任基準(内規:2016年11月8日 第13回学科主任会承認)	年度末
	3-8G2	【研究科】 教員の昇格について、研究科独自の基準、手続 がある場合、それが明文化され、その適切性・透 明性が担保されるよう取り組みましたか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 研究科独自の内規、とりきめ 等	理工学部教員昇任基準(内規:2016年11月8日 第13回学科主任会承認)	年度末
(7)	3-10U	【学部】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の 教育研究活動の業績を適切に評価する仕組み が機能しましたか。	2016	×		教員情報として研究業績を公開 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/science/staff.html#anchor_05 教育活動は卒業研究および授業アンケートの公 開 https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/kyoumu/FD_suishin/enquete2015second/150.html#link02	年度末
	3-10G	【研究科】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の 教育研究活動の業績を適切に評価する仕組み が機能しましたか。	2016	×		教員情報として研究業績を公開 http://www.aoyama.ac.jp/faculty/science/staff.html#anchor_05 教育活動は卒業研究および授業アンケートの公 開 https://jimweb.jm.aoyama.ac.jp/kyoumu/FD_suishin/enquete2015second/150.html#link02	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会
担当部署/担当者: 学務課(相)
評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(8)	3-11U1	【学部】 教員組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【学部】 大学学則第14条第4項 検証会議体:専任教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :2016年4月20日付承認 左記検証会議体からの委任先 専任教授会 主任会議	年度初め
	3-11G1	【研究科】 教員組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第77条第1項第1号および第2号 検証会議体:博士前期課程委員会/修士課程委員会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第73条第1項第1号および第2号 検証会議体:博士後期課程委員会/博士課程委員会	【研究科】 委任に関する申し合わせ等 :2016年5月11日付承認 左記検証会議体からの委任先 専任教授会 コース教務主任会議	年度初め
	3-11U2	【学部】 教員組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【学部】 第●専任教授会議体・議事録等 検証会議体:専任教授会 2016年5月11日 学科主任会 2016年10月18日 学科主任会	【学部】 委任先議題・議事録等 2016年5月11日 学科主任会 2016年10月18日 学科主任会 2016年11月9日 第4回専任教授会	年度末
	3-11G2	【研究科】 教員組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】 第●回議題・議事録等 検証会議体:博士前期課程委員会/修士課程委員会 【博士後期・一貫制博士】 第●回議題・議事録等 検証会議体:博士後期課程委員会/博士課程委員会	第17回専攻コース主任会 2017年1月11日	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 理工学部自己点検・評価委員会
理工学研究科自己点検・評価委員会
担当部署/担当者: 学務課(相)
評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日) ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(9)	3-12U	<p>【学部】 学部の教員組織の編制方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		<p>教授会議事録 2015年9月30日 第9回教授会</p>	年度初め
	3-12G	<p>【研究科】 研究科の教員組織の編制方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		<p>研究科教授会議事録 2015年9月30日</p>	年度初め

社会情報学部・社会情報学研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 社会情報学部自己点検・評価委員会
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務課(相)
 評価基準： 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	3-2U	【学部】 組織的な教育を実施する上において必要な役職 や諸委員が配置され、その責任の所在が明確に されていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学職制規則 その他 学部独自の内規、とりきめ等	第01回 教授会記録(2016.04.20)	年度初め
	3-2G	【研究科】 組織的な教育を実施する上において必要な役職 や諸委員が配置され、その責任の所在が明確に されていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学職制規則 その他 研究科独自の内規、とりきめ等	第01回 学部教授会記録(2016.04.20)	年度初め
(2)	3-4U	【学部】 学部の教育研究上の目的を実現するために、学 部の教員組織の編制方針が定められ、かつ教 職員で共有していますか。	2016	○	【学部】 方針が記載されているとともに、教職員での共有状況が 分かる媒体等	第11回教授会(2015.10.14) 議事・資料 第1回専任教授会(2016.4.20) 議事・資料	年度初め
	3-4G	【研究科】 研究科の教育研究上の目的を実現するために、 研究科の教員組織の編制方針が定められ、か つ教職員で共有していますか。	2016	○	【研究科】 方針が記載されているとともに、教職員での共有状況が 分かる媒体等	第11回学部教授会(2015.10.14) 議事・資料 第1回専任教授会(2016.4.20) 議事・資料	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 社会情報学部自己点検・評価委員会
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務課(相)
 評価基準： 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	3-5U	【学部】 法令(大学設置基準等)によって定められた学科ごとに必要な専任教員数等が把握され、その数は満たされていますか。	2016	○	【学部】 大学資料集「庶務課6 学部の教員組織」	http://www.aoyama.ac.jp/faculty/ssi/staff.html 2016.6.13確認	年度初め
	3-5G	【研究科】 法令(大学院設置基準、専門職大学院設置基準等)によって定められた専攻ごとに必要な専任教員数等が把握され、その数は満たされていますか。	2016	○	【研究科】 大学資料集「庶務課7 ★大学院研究科の教員組織」 大学資料集「庶務課8 ★専門職大学院の教員組織」	http://www.aoyama.ac.jp/faculty/ssi/staff.html 2016.5.17確認	年度初め
(4)	3-6U	【学部】 学部単位で特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。 ※大学設置基準第7条第3項に則る。 ※以下を参考として用いる。 ・61歳以上が35%を超えていないか。 ・30歳以下、31～40歳、41～50歳、51～60歳、61歳以上でみたとき、各年代の全体に占める割合が30%を超えていないか。 ※ただし、教員組織の編制方針等で明示された事項に基づいて超過している場合は、その旨を備考欄に記載してください。	2016	○	【学部】 大学資料集「庶務課9 専任教員年齢構成」	第1回、2回 専任教授会(2016.4.20 2016.5.11) 専任教授会議事・資料	年度初め
	3-6G	【研究科】 研究科単位で特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。 ※大学院設置基準第8条第5項に則る。 ※以下を参考として用いる。 ・61歳以上が35%を超えていないか。 ・30歳以下、31～40歳、41～50歳、51～60歳、61歳以上でみたとき、各年代の全体に占める割合が30%を超えていないか。 ※ただし、教員組織の編制方針等で明示された事項に基づいて超過している場合は、その旨を備考欄に記載してください。	2016	○	【研究科】 大学資料集「庶務課9 専任教員年齢構成」	第1回、2回 専任教授会(2016.4.20 2016.5.11) 専任教授会議事・資料	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 社会情報学部自己点検・評価委員会
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務課(相)
 評価基準： 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	3-7U	<p>【学部】 教員組織の編制方針と実際の教員組織の編制 実態と整合性がとれていますか。</p> <p>※大学設置基準第7条第3項(大学は、教育研 究水準の維持向上及び教育研究の活性化を 図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著 しく偏ることのないよう配慮するものとする。)を踏 まえていること。</p>	2016	○	<p>【学部】 大学ホームページ「専任教員紹介」 http://www.aoyama.ac.jp/research/staff/ 確認日:(2016.5.14)</p>	<p>http://www.aoyama.ac.jp/faculty/ssi/staff.html 確認日:(2016.5.14)</p>	年度初め
	3-7G	<p>【研究科】 教員組織の編制方針と実際の教員組織の編制 実態と整合性がとれていますか。</p> <p>※大学院設置基準第8条第5項(大学院は、教育 研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を 図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に 著しく偏ることのないよう配慮するものとする。)を ふまえていること。</p>	2016	○	<p>【研究科】 大学ホームページ「専任教員紹介」 http://www.aoyama.ac.jp/research/staff/ 確認日:()</p>	<p>http://www.aoyama.ac.jp/faculty/ssi/staff.html 2016.5.17確認</p>	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 社会情報学部自己点検・評価委員会
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務課(相)
 評価基準： 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(6)	3-8U1	【学部】 教員の募集・採用について、学部独自の基準、 手続がある場合、それが明文化され、その適切 性・透明性が担保されるよう取り組みました か。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 学部独自の内規、とりきめ 等 社会情報学部専任教授会記録		年度末
	3-8G1	【研究科】 教員の募集・採用について、研究科独自の基 準、手続がある場合、それが明文化され、その 適切性・透明性が担保されるよう取り組みまし たか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 研究科独自の内規、とりきめ 等		年度末
	3-8U2	【学部】 教員の昇格について、学部独自の基準、手続が ある場合、それが明文化され、その適切性・透明 性が担保されるよう取り組みましたか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【学部】 学部独自の内規、とりきめ 等 社会情報学部昇任基準(2016.第一回専任教授会承認) 社会情報学部専任教授会記録		年度末
	3-8G2	【研究科】 教員の昇格について、研究科独自の基準、手続 がある場合、それが明文化され、その適切性・透 明性が担保されるよう取り組みましたか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 研究科独自の内規、とりきめ 等		年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 社会情報学部自己点検・評価委員会
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務課(相)
 評価基準： 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(7)	3-10U	【学部】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の 教育研究活動の業績を適切に評価する仕組み が機能しましたか。	2016	○	「青山学院学術賞」 青山学院学術賞規則 青山学院学術賞規則施行細則	【学部】 学部独自の内規、とりきめ 等 2016年度第1回社会情報学部教授会 資料1-20「2016年度青山学院学術賞受賞候補 者の推薦について」として募集要項・規則等 2016年度第3回社会情報学部教授会 資料3-10「2016年度青山学院学術賞受賞候補 者の推薦の件」として推薦書一式	年度末
	3-10G	【研究科】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の 教育研究活動の業績を適切に評価する仕組み が機能しましたか。	2016	○	「青山学院学術賞」 青山学院学術賞規則 青山学院学術賞規則施行細則	【研究科】 学部独自の内規、とりきめ 等 2016年度第1回社会情報学部教授会 資料1-20「2016年度青山学院学術賞受賞候補 者の推薦について」として募集要項・規則等 2016年度第3回社会情報学部教授会 資料3-10「2016年度青山学院学術賞受賞候補 者の推薦の件」として推薦書一式	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 社会情報学部自己点検・評価委員会
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者: 学務課(相)
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(8)	3-11U1	【学部】 教員組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【学部】 大学学則第14条第4項 検証会議体: 専任教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 : ●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	3-11G1	【研究科】 教員組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】 大学院学則第77条第1項第1号および第2号 検証会議体: 博士前期課程委員会/修士課程委員会 【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第73条第1項第1号および第2号 検証会議体: 博士後期課程委員会/博士課程委員会	【修士・博士前期】 委任に関する申し合わせ等 : ●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :() 【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 : ●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()	年度初め
	3-11U2	【学部】 教員組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【学部】 第1回専任教授会議題・議事録等 検証会議体: 専任教授会	【学部】 委任先議題・議事録等	年度末
	3-11G2	【研究科】 教員組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【修士・博士前期】 第1回専任教授会議題・議事録等 検証会議体: 学部専任教授会 【博士後期・一貫制博士】 第1回専任教授会議題・議事録等 検証会議体: 学部専任教授会	【修士・博士前期】 委任先議題・議事録等 【博士後期・一貫制博士】 委任先議題・議事録等	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 社会情報学部自己点検・評価委員会
 社会情報学研究科自己点検・評価委員会
 担当部署/担当者： 学務課(相)
 評価基準： 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(9)	3-12U	<p>【学部】 学部の教員組織の編制方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		専任教授会	年度初め
	3-12G	<p>【研究科】 研究科の教員組織の編制方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		専任教授会	年度初め

地球社会共生学部

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 地球社会共生学部自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	3-2U	【学部】 組織的な教育を実施する上において必要な役職 や諸委員が配置され、その責任の所在が明確 にされていますか。	2016	○	【学部】 青山学院大学職制規則 その他 学部独自の内規、とりきめ等	「2016(平成28)年度 地球社会共生学部 諸委 員」 (2015年度第20回教授会資料)	年度初め
(2)	3-4U	【学部】 学部の教育研究上の目的を実現するために、学 部の教員組織の編制方針が定められ、かつ教 職員で共有していますか。	2016	○	【学部】 方針が記載されているとともに、教職員での共有状況が 分かる媒体等	「地球社会共生学部 教員組織の編制方針」 (2015年度第4回教授会資料)	年度初め
(3)	3-5U	【学部】 法令(大学設置基準等)によって定められた学 科ごとに必要な専任教員数等が把握され、その 数は満たされていますか。	2016	○	【学部】 大学資料集「庶務課6 学部の教員組織」		年度初め
(4)	3-6U	【学部】 学部単位で特定の範囲の年齢に著しく偏らない ように配慮していますか。 ※大学設置基準第7条第3項に則る。 ※以下を参考として用いる。 ・61歳以上が35%を超えていないか。 ・30歳以下、31～40歳、41～50歳、51～60歳、61 歳以上でみたとき、各年代の全体に占める割合 が30%を超えていないか。 ※ただし、教員組織の編制方針等で明示された 事項に基づいて超過している場合は、その旨を 備考欄に記載してください。	2016	○	【学部】 大学資料集「庶務課9 専任教員年齢構成」	地球社会共生学部設置届け出書(平成26年4月 26日)	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 地球社会共生学部自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	3-7U	<p>【学部】 教員組織の編制方針と実際の教員組織の編制 実態と整合性がとれていますか。</p> <p>※大学設置基準第7条第3項(大学は、教育研 究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図 るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著し く偏ることのないよう配慮するものとする。)を踏 まえていること。</p>	2016	○	<p>【学部】 大学ホームページ「専任教員紹介」 http://www.aoyama.ac.jp/research/staff/ 確認日:(2016/05/13)</p>		年度初め
(6)	3-8U1	<p>【学部】 教員の募集・採用について、学部独自の基準、 手続がある場合、それが明文化され、その適切 性・透明性が担保されるよう取り組みました か。</p> <p>※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。</p>	2016	○	<p>【学部】 学部独自の内規、とりきめ 等 第3回専任教授会(2016年6月8日) 「地球社会共生学部助教任用に関する申し合わせ事項」</p>		年度末
	3-8U2	<p>【学部】 教員の昇格について、学部独自の基準、手続が ある場合、それが明文化され、その適切性・透 明性が担保されるよう取り組みましたか。</p> <p>※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。</p>	2016	○	<p>【学部】 学部独自の内規、とりきめ 等</p>		年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 地球社会共生学部自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務課(相)

評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(7)	3-10U	【学部】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の 教育研究活動の業績を適切に評価する仕組み が機能しましたか。	2016	×			年度末
(8)	3-11U1	【学部】 教員組織の適切性(※)を検証するにあたり、会 議体(委員会等)・手続きが明文化されています か。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との 適合性 など	2016	○	【学部】 大学学則第14条第4項 検証会議体:専任教授会	【学部】 委任に関する申し合わせ等 :2016年4月20日付承認 左記検証会議体からの委任先 :(主任会)	年度初め
	3-11U2	【学部】 教員組織の適切性(※)は、明文化された手続き に従って定期的に検証され、その結果は改善に つながっていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との 適合性 など	2016	○	【学部】 第16回専任教授会議題・議事録等 検証会議体:専任教授会	【学部】 委任先議題・議事録等 第16回主任会(2017年1月18日) 「2016年度地球社会共生学部自己点検評価に関 する主任会による検証について」	年度末
(9)	3-12U	【学部】 学部の教員組織の編制方針は適切ですか (※)。 ※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社 会、文部科学省、大学基準協会等)の要請に あっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすい か。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など 適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自 己点検・評価委員会へ報告してください。	2016	○		学部HP 「2016(平成28)年度 地球社会共生学部 諸委 員」(2015年度第20回教授会資料)	年度初め

国際マネジメント研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	3-2G	【研究科】 組織的な教育を実施する上において必要な役職 や諸委員が配置され、その責任の所在が明確 にされていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学職制規則 その他 研究科独自の内規、とりきめ等	教授会配付資料「2016年度 諸委員委嘱につい て」	年度初め
(2)	3-4G	【研究科】 研究科の教育研究上の目的を実現するために、 研究科の教員組織の編制方針が定められ、か つ教職員で共有していますか。	2016	○	【研究科】 方針が記載されているとともに、教職員での共有状況が 分かる媒体等		年度初め
(3)	3-5G	【研究科】 法令(大学院設置基準、専門職大学院設置基準 等)によって定められた専攻ごとに必要な専任教 員数等が把握され、その数は満たされています か。	2016	○	【研究科】 大学資料集「庶務課7 ★大学院研究科の教員組織」 大学資料集「庶務課8 ★専門職大学院の教員組織」		年度初め
(4)	3-6G	【研究科】 研究科単位で特定の範囲の年齢に著しく偏らな いように配慮していますか。 ※大学院設置基準第8条第5項に則る。 ※以下を参考として用いる。 ・61歳以上が35%を超えていないか。 ・30歳以下、31～40歳、41～50歳、51～60歳、61 歳以上でみたとき、各年代の全体に占める割合 が30%を超えていないか。 ※ただし、教員組織の編制方針等で明示された 事項に基づいて超過している場合は、その旨を 備考欄に記載してください。	2016	○	【研究科】 大学資料集「庶務課9 専任教員年齢構成」		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部
 評価基準： 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	3-7G	<p>【研究科】 教員組織の編制方針と実際の教員組織の編制 実態と整合性がとれていますか。</p> <p>※大学院設置基準第8条第5項(大学院は、教育 研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を 図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に 著しく偏ることのないよう配慮するものとする。 をふまえていること。</p>	2016	○	<p>【研究科】 大学ホームページ「専任教員紹介」 http://www.aoyama.ac.jp/research/staff/ 確認日:(2016/6/1)</p>	<p>研究科ホームページ「教員紹介」 http://www.aoyamabs.jp/facultyandresearch/inde x.html</p>	年度初め
(6)	3-8G1	<p>【研究科】 教員の募集・採用について、研究科独自の基 準、手続がある場合、それが明文化され、その 適切性・透明性が担保されるよう取り組みまし たか。</p> <p>※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。</p>	2016	○	<p>【研究科】 研究科独自の内規、とりきめ 等</p>	<p>教員の募集・採用について、明文化された基準・ 手続きはない</p>	年度末
	3-8G2	<p>【研究科】 教員の昇格について、研究科独自の基準、手続 がある場合、それが明文化され、その適切性・透 明性が担保されるよう取り組みましたか。</p> <p>※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。</p>	2016	○	<p>【研究科】 研究科独自の内規、とりきめ 等</p>	<p>教員の昇格について、明文化された基準・手続き はない</p>	年度末
(7)	3-10G	<p>【研究科】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の 教育研究活動の業績を適切に評価する仕組み が機能しましたか。</p>	2016	○		<p>過去1年間の教育・研究活動等に関する活動の 振り返りと、今後1年間の教育・研究活動等の計 画について研究科長・教務主任等と話し合う Performance & Development面談を実施している。</p>	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(8)	3-11G1	<p>【研究科】 教員組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など</p>	2016	○	<p>【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第7号、第57条の2第4項 検証会議体:研究科教授会、専任教授会</p> <p>【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第73条第1項第1号および第2号 検証会議体:博士後期課程委員会/博士課程委員会</p>	<p>【専門職】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()</p> <p>【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()</p>	年度初め
	3-11G2	<p>【研究科】 教員組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など</p>	2016	○	<p>【専門職】 2017年度第3回研究科教授会議題・議事録等 検証会議体:研究科教授会、 専任教授会</p> <p>【博士後期・一貫制博士】 2017年度第3回議題・議事録等 検証会議体:博士後期課程委員会/博士課程委員会</p>	<p>【専門職】 2017年度第2回国際マネジメント研究科議事録 委任に関する申し合わせ等 :2017年5月24日付承認 左記検証会議体からの委任先 :(国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会)</p> <p>【博士後期・一貫制博士】 2017年度第2回国際マネジメント研究科議事録 委任に関する申し合わせ等 :2017年5月24日付承認 左記検証会議体からの委任先 :(国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会)</p>	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 国際マネジメント研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(9)	3-12G	<p>【研究科】 研究科の教員組織の編制方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		2016/6/1 研究科自己点検・評価委員会で議論し、関連した内容になっていることを確認(議事録に記載)	年度初め

法務研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 法務研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 学務部専門職大学院教務課

評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	3-2G	【研究科】 組織的な教育を実施する上において必要な役職 や諸委員が配置され、その責任の所在が明確に されていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学職制規則 青山学院大学専門職大学院学則		年度初め
(2)	3-4G	【研究科】 研究科の教育研究上の目的を実現するために、 研究科の教員組織の編制方針が定められ、か つ教職員で共有していますか。	2016	○	【研究科】 法務研究科 教員組織の編制方針		年度初め
(3)	3-5G	【研究科】 法令(大学院設置基準、専門職大学院設置基準 等)によって定められた専攻ごとに必要な専任教 員数等が把握され、その数は満たされています か。	2016	○	【研究科】 大学資料集「庶務課7 ★大学院研究科の教員組織」 大学資料集「庶務課8 ★専門職大学院の教員組織」		年度初め
(4)	3-6G	【研究科】 研究科単位で特定の範囲の年齢に著しく偏ら ないように配慮していますか。 ※大学院設置基準第8条第5項に則る。 ※以下を参考として用いる。 ・61歳以上が35%を超えていないか。 ・30歳以下、31～40歳、41～50歳、51～60歳、61 歳以上でみたとき、各年代の全体に占める割合 が30%を超えていないか。 ※ただし、教員組織の編制方針等で明示された 事項に基づいて超過している場合は、その旨を 備考欄に記載してください。	2016	×	【研究科】 大学資料集「庶務課9 専任教員年齢構成」		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 法務研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部専門職大学院教務課

評価基準： 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	3-7G	【研究科】 教員組織の編制方針と実際の教員組織の編制 実態と整合性がとれていますか。 ※大学院設置基準第8条第5項(大学院は、教育 研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を 図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に 著しく偏ることのないよう配慮するものとする。) をふまえていること。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「専任教員紹介」 http://www.aoyama.ac.jp/research/staff/ 確認日:(6/9)		年度初め
(6)	3-8G1	【研究科】 教員の募集・採用について、研究科独自の基 準、手続がある場合、それが明文化され、その 適切性・透明性が担保されるよう取り組みまし たか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○			年度末
	3-8G2	【研究科】 教員の昇格について、研究科独自の基準、手続 がある場合、それが明文化され、その適切性・透 明性が担保されるよう取り組みましたか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○			年度末
(7)	3-10G	【研究科】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の 教育研究活動の業績を適切に評価する仕組み が機能しましたか。	2016	○		青山学院大学大学院法務研究科FD規定	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 法務研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部専門職大学院教務課

評価基準： 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(8)	3-11G1	【研究科】 教員組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○	【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第7号、第57条の2第4項 検証会議体：研究科教授会、専任教授会	【専門職】 青山学院大学大学院法務研究科主任会規程 検証会議体：(法務研究科主任会)	年度初め
	3-11G2	【研究科】 教員組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	○			年度末
(9)	3-12G	【研究科】 研究科の教員組織の編制方針は適切ですか(※)。 ※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など 適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。	2016	○		法務研究科自己点検・評価報告書 青山学院大学大学院法務研究科主任会規程	年度初め

会計プロフェッション研究科

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	備考 状況説明や { 次年度への引き継ぎ事項など }	チェック 可能時期
(1)	3-2G	【研究科】 組織的な教育を実施する上において必要な役職 や諸委員が配置され、その責任の所在が明確 にされていますか。	2016	○	【研究科】 青山学院大学職制規則 その他 研究科独自の内規、とりきめ等		※専攻(課程)ごとに状況が異な る場合はこちらに記入	年度初め
(2)	3-4G	【研究科】 研究科の教育研究上の目的を実現するために、 研究科の教員組織の編制方針が定められ、か つ教職員で共有していますか。	2016	○	【研究科】 方針が記載されているとともに、教職員での共有状況が 分かる媒体等	会計プロフェッション研究科「教員組織の編制方 針」	※専攻(課程)ごとに状況が異な る場合はこちらに記入	年度初め
(3)	3-5G	【研究科】 法令(大学院設置基準、専門職大学院設置基準 等)によって定められた専攻ごとに必要な専任教 員数等が把握され、その数は満たされています か。	2016	○	【研究科】 大学資料集「庶務課7 ★大学院研究科の教員組織」 大学資料集「庶務課8 ★専門職大学院の教員組織」	会計プロフェッション研究科「2015年度自己点検評 価報告書」	※専攻(課程)ごとに状況が異な る場合はこちらに記入	年度初め
(4)	3-6G	【研究科】 研究科単位で特定の範囲の年齢に著しく偏らな いように配慮していますか。 ※大学院設置基準第8条第5項に則る。 ※以下を参考として用いる。 ・61歳以上が35%を超えていないか。 ・30歳以下、31～40歳、41～50歳、51～60歳、61 歳以上でみたとき、各年代の全体に占める割合 が30%を超えていないか。 ※ただし、教員組織の編制方針等で明示された 事項に基づいて超過している場合は、その旨を 備考欄に記載してください。	2016	○	【研究科】 大学資料集「庶務課9 専任教員年齢構成」	会計プロフェッション研究科「2015年度自己点検評 価報告書」	※専攻(課程)ごとに状況が異な る場合はこちらに記入	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	備考 状況説明や { 次年度への引き継ぎ事項など }	チェック 可能時期
(5)	3-7G	【研究科】 教員組織の編制方針と実際の教員組織の編制 実態と整合性がとれていますか。 ※大学院設置基準第8条第5項(大学院は、教育 研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を 図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に 著しく偏ることのないよう配慮するものとする。) をふまえていること。	2016	○	【研究科】 大学ホームページ「専任教員紹介」 http://www.aoyama.ac.jp/research/staff/ 確認日:()	会計プロフェッション研究科「教員組織の編制方 針」 会計プロフェッション研究科「2015年度自己 点検評価報告書」 会計プロフェッション研究科ホームページ「教員・ スタッフ紹介」 http://www.gspa.aoyama.ac.jp/about/staffs.html 確認日:(2016年6月1日)	※専攻(課程)ごとに状況が異な る場合はこちらに記入	年度初め
(6)	3-8G1	【研究科】 教員の募集・採用について、研究科独自の基 準、手続がある場合、それが明文化され、その 適切性・透明性が担保されるよう取り組みまし たか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 研究科独自の内規、とりきめ 等		※専攻(課程)ごとに状況が異な る場合はこちらに記入	年度末
	3-8G2	【研究科】 教員の昇格について、研究科独自の基準、手続 がある場合、それが明文化され、その適切性・透 明性が担保されるよう取り組みましたか。 ※独自の基準、手続がまったくない場合、便宜 上「○」とし、備考欄にその旨記載してください。	2016	○	【研究科】 「会計プロフェッション研究科 准教授から教授への昇任 に関する内規」		研究科第2回専任教授会で内規 を承認	年度末
(7)	3-10G	【研究科】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の 教育研究活動の業績を適切に評価する仕組み が機能しましたか。	2016	○	2016年度第5回研究科教授会報告事項6、第7回研究科 教授会協議事項5、第15回研究科教授会報告事項14、 2017年度第3回研究科教授会協議事項5	「青山学院大学会計プロフェッション研究科2016年 度自己点検評価報告書」	研究科独自に作成する「2016年 度自己点検評価報告書」は2017 年前期中に完成の予定。	年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会： 会計プロフェッション研究科自己点検・評価委員会

担当部署/担当者： 学務部

評価基準： 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	備考 状況説明や { 次年度への引き継ぎ事項など	チェック 可能時期
(8)	3-11G1	<p>【研究科】 教員組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など</p>	2016	○	<p>【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第7号、第57条の2第4項 検証会議体:研究科教授会、専任教授会</p> <p>【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第73条第1項第1号および第2号 検証会議体:博士後期課程委員会/博士課程委員会</p>	<p>【専門職】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()</p> <p>【博士後期・一貫制博士】 委任に関する申し合わせ等 :●年●月●日付承認 左記検証会議体からの委任先 :()</p>	<p>※委任先がある場合、必要に応じて状況を記入 ※専攻(課程)ごとに状況が異なる場合はこちらに記入</p>	年度初め
(8)	3-11G2	<p>【研究科】 教員組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。</p> <p>※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など</p>	2016	○	<p>【専門職】 専門職大学院学則第56条第1項第7号、第57条の2第4項 「会計プロフェッション研究科教員組織の適切性確保手続のための内規」 2016年度第5回研究科教授会報告事項6、第7回研究科教授会協議事項5、第9回研究科教授会協議事項5、第15回研究科教授会報告事項14、2017年度第3回研究科教授会協議事項5 検証会議体:研究科教授会、専任教授会</p> <p>【博士後期・一貫制博士】 大学院学則第73条第1項第1号および第2号 検証会議体:博士後期課程委員会/博士課程委員会</p>	<p>【専門職】 「青山学院大学会計プロフェッション研究科2016年度自己点検評価報告書」</p> <p>【博士後期・一貫制博士】 「青山学院大学会計プロフェッション研究科2016年度自己点検評価報告書」</p>	<p>第9回研究科教授会にて「会計プロフェッション研究科教員組織の適切性確保手続のための内規」を承認 研究科独自に作成する「2016年度自己点検評価報告書」は2017年前期中に完成の予定。</p>	年度末
(9)	3-12G	<p>【研究科】 研究科の教員組織の編制方針は適切ですか(※)。</p> <p>※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など</p> <p>適切でない場合は改定版を作成のうえ、全学自己点検・評価委員会へ報告してください。</p>	2016	○		<p>会計プロフェッション研究科「2015年度自己点検評価報告書」</p>	<p>※専攻(課程)ごとに状況が異なる場合はこちらに記入</p>	年度初め

全学自己点検・評価委員会

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 全学自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 政策・企画部

評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	3-3W	【大学全体】 大学として求める教員像(※)が明確に定められていますか。 ※ ・専門分野に関する能力 ・教育に対する姿勢 など	2016	○	【大学全体】 大学ホームページ「求める教員像および教員組織の編制方針」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/academic.html 確認日:(2016.5.19)		年度初め
(2)	3-4W	【大学全体】 「青山学院教育方針」および「青山学院大学の理念」を実現するために、大学全体の教員組織の編制方針が定められ、かつ教職員で共有されていますか。	2016	○	【大学全体】 大学ホームページ「求める教員像および教員組織の編制方針」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/academic.html 確認日:(2016.5.19)	2015年度第6回全学自己点検・評価委員会(2016.3.28開催)資料1及び同委員会記録 内部質保証システム実務説明会(2015.4.29ほか2回開催)資料1 2016年度第1回学部長会(2016.4.11開催)報告資料8	年度初め
(3)	3-5W	【大学全体】 法令(大学設置基準、大学院設置基準、専門職大学院設置基準等)によって定められた大学全体として必要な専任教員数等が把握され、その数は満たされていますか。	2016	○	【大学全体】 大学資料集「庶務課6 学部の教員組織」 大学資料集「庶務課7 ★大学院研究科の教員組織」 大学資料集「庶務課8 ★専門職大学院の教員組織」		年度初め
(4)	3-7W	【大学全体】 教員組織の編制方針と実際の教員組織の編制実態は整合性がとれていますか。	2016	×	【大学全体】 大学ホームページ「専任教員紹介」 http://www.aoyama.ac.jp/research/staff/ 確認日:(2016.5.19) 大学資料集「庶務9 専任教員年齢構成」 確認日:(2016.5.20)		年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 全学自己点検・評価委員会

担当部署/担当者: 政策・企画部

評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(5)	3-11W1	【大学全体】 教員組織の適切性(※)を検証するにあたり、会議体(委員会等)・手続きが明文化されていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	×		【大学全体】 関連規則等 検証会議体:()	年度初め
	3-11W2	【大学全体】 教員組織の適切性(※)は、明文化された手続きに従って定期的に検証され、その結果は改善につながっていますか。 ※適切性の視点 ・求める教員像および教員組織の編制方針との適合性 など	2016	×		【大学全体】 2016年度第5回全学自己点検・評価委員会(2017年2月28日開催)資料3及び同委員会記録	年度末
(6)	3-12W	【大学全体】 大学全体の教員組織の編制方針は適切ですか(※)。 ※適切な視点 ・相互に関連が必要な方針と整合性はあるか。 ・現状や計画と大きな乖離がないか。 ・時代やステークホルダー(学生、受験生、社会、文部科学省、大学基準協会等)の要請にあっているか。 ・自己点検・評価(チェックリスト)を行いやすいか。 ・ホームページ等で公表できる内容か。 など 適切でない場合は修正案を作成のうえ、上位の委員会へ附議してください。	2016	○		・各学部・研究科の教員組織の編制方針 ・大学基準(大学基準協会) ・大学ホームページ「各種方針-求める教員像・教員組織の編制方針」 http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/self_study/policy/academic.html 確認日:(2016.5.19) 2015年度第6回全学自己点検・評価委員会(2016.3.28開催)資料1及び同委員会記録	年度初め

庶務部

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 庶務部

評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(1)	3-1W1	【大学全体】 採用の基準等において、教員に求める能力・資 質等が明らかにされていますか。 ※学校教育法第92条、その他大学設置基準、大 学院設置基準、専門職大学院設置基準等の関 連法令に定める教員の資格要件等を踏まえてい ること。	2016	○	【大学全体】 青山学院大学専任教員の任用及び昇任に関する規則	青山学院助教規則 青山学院助手規則 青山学院大学特別任用教員の任用資格、任用手 続及び職務等に関する規則 青山学院大学専任待遇外国人教員任用規則 青山学院大学宗教部長及び大学宗教主任に関す る規則 青山学院キリスト教教育・活動に関する規則	年度初め
	3-1W2	【大学全体】 昇格の基準等において、教員に求める能力・資 質等が明らかにされていますか。 ※学校教育法第92条、その他大学設置基準、大 学院設置基準、専門職大学院設置基準等の関 連法令に定める教員の資格要件等を踏まえてい ること。	2016	○	【大学全体】 青山学院大学専任教員の任用及び昇任に関する規則	青山学院助教規則 青山学院助手規則 青山学院大学専任待遇外国人教員任用規則 青山学院大学宗教部長及び大学宗教主任に関す る規則	年度初め

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 庶務部

評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(2)	3-2W	【大学全体】 組織的な教育を実施する上において必要な役割 分担(役職)が割り当てられ、その責任の所在が 明確にされていますか。	2016	○	【大学全体】 青山学院大学職制規則	青山学院大学宗教部長及び大学宗教主任に關する規則	年度初め
(3)	3-8W1	【大学全体】 教員の募集・採用について、基準、手続が明文 化され、その適切性・透明性が担保されるよう に組み組みましたか。	2016	○	【大学全体】 青山学院大学専任教員の任用及び昇任に關する規則		年度末

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 庶務部

評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェック 可能時期
(3)	3-8W2	【大学全体】 教員の昇格について、基準、手続が明文化され、その適切性・透明性が担保されるよう取り組みましたか。	2016	×	【大学全体】 青山学院大学専任教員の任用及び昇任に関する規則		年度末
(4)	3-10W	【大学全体】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の教育研究活動の業績を適切に評価する仕組みが機能しましたか。	2016	×	【大学全体】 青山学院学術賞規則 青山学院学術賞施行細則		年度末

全学FD委員会

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会: 全学FD委員会
 担当部署/担当者: 学務部、学務課(相模原)
 評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※両キャンパスができて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日・会議開催日等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日・会議開催日等を記入)	チェック可能時期
(1)	3-9W	【大学全体】 教育研究、その他の諸活動(※)に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行いましたか。 ※社会貢献、管理業務などを含む教員に求められる様々な活動(授業方法の改善等、教育内容・方法の向上を意図した取り組みについては、「基準IV-3」で取り扱う)	2016	○	【大学全体】 研修会等の内容、対象、参加数、開催頻度等が分かる資料	①2016/4/2 第1回新任教職員研修会 ②2016/9/14 第2回新任教職員研修会 ③2016/9/29 第1回FD講演会 ④2016/11/22 FD・SD研修会 ⑤2016/10/5 第5回教員のための英語研修 ⑥2016/11/2 第6回教員のための英語研修	年度末
(2)	3-10W	【大学全体】 教育・研究活動が活性化するよう、教員個人の教育研究活動の業績を適切に評価する仕組みが機能しましたか。	2016	×	【大学全体】 青山学院学術賞規則 青山学院学術賞施行細則		年度末

研究推進部

自己点検・評価チェックリスト

担当委員会:

担当部署/担当者: 研究推進部

評価基準: 3(教員・教員組織)

SQ	整理番号	チェック項目	年度	評価 ※すべての 学科、専攻 (課程)がで きて○	共通で用いる根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	チェックリスト担当部局 オリジナルの根拠資料 (資料年度・URL・ウェブ確認日 ・会議開催日 等を記入)	備考 状況説明や 次年度への引き継ぎ事項など	チェック 可能時期
(1)	3-9W	<p>【大学全体】 教育研究、その他の諸活動(※)に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行いましたか。</p> <p>※社会貢献、管理業務などを含む教員に求められる様々な活動(授業方法の改善等、教育内容・方法の向上を意図した取り組みについては、「基準IV-3」で取り扱う)</p>	2016	○		<ul style="list-style-type: none"> ・青山学院大学公的研究費に関するコンプライアンス研修実施概要 ・公的研究費に関するコンプライアンス研修実施報告書 ・平成28年度「公的研究費に関するコンプライアンス研修」出席票、理解度チェックシート ・体制整備等自己評価チェックリスト 		年度末